

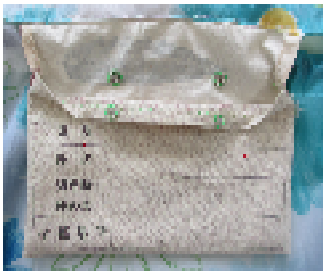
# 防災教育と関連付けた 家庭科指導資料

小学校  
家庭科



「防災頭巾をつくって、  
非常時の安全に備えよう」

中学校  
技術・家庭科  
家庭分野



「小中の裁縫技能を活用  
して非常時対策グッズ  
を製作しよう」



「家庭用防災袋をつくって  
避難路を確認してみよう」

高等学校  
家庭科



岩手県立総合教育センター

『防災教育と関連付けた家庭科指導資料』の作成にあたって

岩手県立総合教育センター

研修部科学産業教育担当研修指導主事 川地 里美

県政の重要な課題である復興教育において、防災教育と関連付けた教科指導は重要な役割を担っています。家庭科は実際の家庭や社会生活を学習内容とする教科であり、家庭科の学習指導においても防災教育の期待は高まっていることから、本指導資料を作成しました。

この指導資料では、家庭科の学習における防災教育の要件を二つに整理しました。この要件は学習指導要領に示されている小・高等学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野のねらいにも即しています。学校や児童生徒の実態に応じた題材を構想する際の参考にしてください。

「いわての復興教育」教育内容における要件と視点 (「いわての復興教育」プログラム p.21)	防災教育と関連付けた家庭科指導の要件 と題材開発の視点
自らを守り、他者を支えるために身に付けさせたい 知識・技能 ・災害による被害を最小化するという視点 ・思いを共有する視点	家庭科で身に付けた技能(中高は技術)や生活技術を活用して、非常時を想定した備えを工夫・創造できる ・非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる 視点
人としての生き方、自らの在り方を考える態度 ・震災から学んだ教訓を生かすという視点	家庭科で身に付けた知識や生活体験を通して、生活課題へのよりよい対応の仕方を考え、判断することができる ・生活課題に対するよりよい対応の仕方的思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる視点

二つの要件に基づいた題材の視点から、小・中・高等学校ごとに、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を開発し紹介しています。各題材は、平成23～24年度の家庭に関する各研修講座の演習題材として活用し、研修に参加された教員の状況もふまえ、小・中・高等学校の系統性も視野に入れながら、修正を試みたものです。 ※【 】は、小中：学習内容・指導事項、高：領域等

校種等	題材の視点	非常時を想定した備えに対する ライフスキルを育てる視点	生活課題に対するよりよい対応の仕方を中心・ 判断・表現させソーシャルスキルを育てる視点
小学校 家庭科  <学習対象の範囲> 家族の一員を自覚し、 家族や近隣に協力する		○身じたくずきんをつくって活用方法を考えよう【A・B・C】 ○ガラスなべでごはんを おいしくたいてみよう【B】 ○具だくさんの汁ものをつ くってみよう【B】 ○落ちないネックタオルをつ くってみよう 【C・D身近な消費生活と環境】	○家族の団らんを計画しよう ー小袱紗づくりとおいしいお茶の入れ方ー 【A家庭生活と家族・B日常の食事と調理の基礎】 ○安全・安心なマイルーム収納を考えよう 【A・C快適な衣服と住まい・D】 ○非常時の家族との連絡方法を確認しよう【A】 ○ナップザックを防災袋にリフォームしよう 防災袋に何を入れておくか考えよう【C・D】
中学校技術・家庭科 家庭分野  <学習対象の範囲> 実生活をよりよくする 方法を考え、家族や地域 で実践する		○安全・安心な地域の食材を使っ て郷土料理をつくってみよう 【B食生活と自立】 ○家族にマイ箸袋をつくって あげよう【A・B・C】 ○住まいの安全・安心対策や節電 に役立つ小物を工夫しよう 【C衣生活・住生活と自立・D】	○家族が安全・安心な室内環境を考えよう【C】 ○あずきや大豆を入れたお手玉をつくって子ども や高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう 【A・C・D身近な消費生活と環境】 ○家族の安全マニュアルを考えよう 【A家族・家庭と子どもの成長・C】
高等学校 共通教科 家庭 家庭基礎(2単位) 家庭総合(4単位) 生活デザイン(Ⅱ) <学習対象の範囲> 生涯を見通して生活設 計を考え(自立)、異な る世代との共生(地域・ 社会)を目指す		○文化祭で郷土料理や地場産品 を取り入れたふれあい食堂や バザーを企画しよう【食・家ク】 ○被服技術検定の技能を活かし、 非常時対策グッズを考案・製作 して地域の子どもや高齢者に プレゼント(普及)しよう 【衣・HP・家ク】	○復興メッセージリボンをつくって地域に普及 させよう【衣・学校家庭クラブ活動】 ○保育技術検定の技能を活かし、文化祭などで プレイルームを企画しよう【保育・家ク】 ○安全・安心な〇〇生活や〇〇環境について 考えよう(食生活・消費生活・住環境等) 【食・衣・住・消費と環境・ホームプロジェクト・ 学校家庭クラブ活動】 ○日常と非常時の子育て支援や高齢・障がい者支援 について考えよう 【家族家庭・保育・福祉・家ク】

## 題材とページ一覧

東日本大震災津波後、非常時に対する備えの状況はどうでしょうか。教科指導のガイダンスなどで、児童生徒アンケートを行い、結果等をふまえ、本指導資料の題材や指導展開例を参考にしながら学習指導を工夫しましょう。『防災教育に関連付けた家庭科指導資料』の活用が、実際の生活や非常時の備え、そして避難行動の充実・向上につなげる指導に少しでも役立つことを願っています。指導資料は、当センターWeb ページからダウンロードしてご活用ください。

### I 小学校 家庭科

#### 1 非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

- (1) 身じたくずきんをつくって活用方法を考えよう・・・3
- (2) 透明なべでごはんをおいしくたいてみよう・・・5
- (3) 具だくさんの汁ものをつくってみようー地域の料理「だんご汁」「せんべい汁」ー・・・6
- (4) 落ちないネックタオルをつくってみよう・・・9

#### 2 生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

- (1) 家族の団らんを計画しようー小袱紗こぶくさつくりとおいしいお茶の入れ方ー・・・11
- (2) 安全・安心なマイルーム収納を考えよう・・・15
- (3) 非常時の家族との連絡方法を確認しよう・・・17
- (4) ナップザックを防災袋にリフォームしようー家庭用防災袋に何を入れておくか考えようー23

### II 中学校 技術・家庭科 家庭分野

#### 1 非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

- (1) 安全・安心な地域の食材を使って郷土料理を作ってみよう・・・27
- (2) 家族にマイ箸袋を作ってあげよう・・・37
- (3) 住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう・・・41

#### 2 生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

- (1) 家族が安全・安心な室内環境を考えよう・・・43
- (2) あずきや大豆を入れたお手玉をつくって、子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう・・・51
- (3) 家族の安全マニュアルを考えよう・・・55

### III 高等学校 共通教科家庭科 「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」

#### 1 非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

- (1) 文化祭で郷土料理や地場産品を取り入れたふれあい食堂やバザーを企画しよう・・・59
- (2) 被服技術検定の技術を活かし、非常時対策グッズを考案・製作して地域の子どもや高齢者にプレゼント（普及）しよう・・・65

#### 2 生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

- (1) 復興メッセージリボンをつくって地域に普及させよう・・・66
- (2) 保育技術検定の技能を活かし、文化祭などでプレイルームを企画しよう・・・67
- (3) 安全・安心な○生活や○環境について考えよう（食生活・消費生活・住環境等）・・・70
- (4) 日常と非常時の子育てや高齢・障がい者の支援について考えよう・・・70

巻末資料「家庭科／技術・家庭科における安全指導資料」・・・73～76

# I 小学校家庭科 1-(1) 題材名：身じたくずきんをつかって活用方法を考えよう

【活動のねらい】身じたくずきんをつかって、家庭の仕事と非常時<sup>ひじょうじ</sup>での活用方法を考える。

- 布を必要な寸法に計って切る
- 印つけ
- 正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き
- ミシンの上糸・下糸のかけ方
- 手ぬい針に糸を通す
- 玉結び
- なみぬい
- 返しぬい
- 玉どめ
- ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい、角のぬい方）
- 家庭の仕事を調べ、できることを増やす
- 非常時の備えを工夫する

## <材 料>

- ・ さらし88cm（または市販の手ぬぐい1枚）
- ・ ミシン糸・手ぬい糸

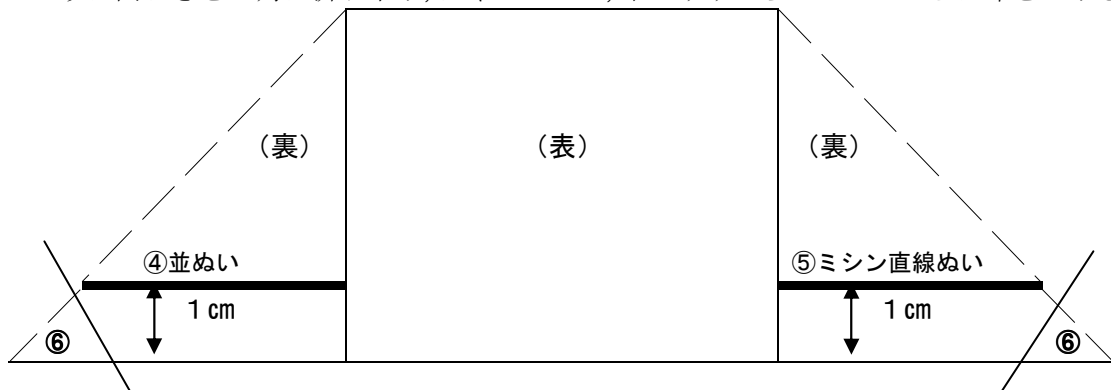
## <用 具>

ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、たちばさみ、まち針、手ぬい針（短針）、指ぬき、糸切りばさみ

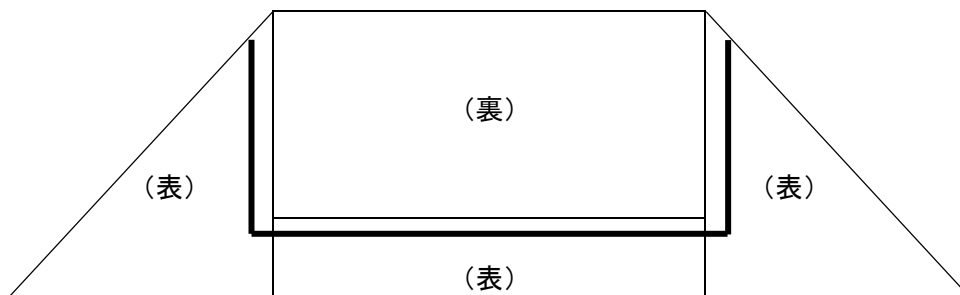


## <身じたくずきんのつくり方>

- ① さらしを88cm長さに計って切る。
- ② 図のように両わきを三角に折り下げ、チャコペンで、布のみみから1cmのところ印をつける。



- ③ ②で印を付けたところにまち針をとめる。【ぬう方向に対して垂直にとめること】
- ④ 片方は細かい針目のなみぬいでぬう。【玉結び→ぬい始め一針返し→細かい針目のなみぬい→糸こき→終わりの一針返しぬい→玉どめ】
- ⑤ もう片方はミシンの直線ぬいでぬう。【ぬい目のあさは2, 始めと終わりは返しぬい】
- ⑥ 手ぬいとミシンぬいが終わったら、ミシンのぬい目を切らないように、2つの角を切り落とす。【上図⑥部分】糸はしの始末をして、表に返す。【下図】



- ⑦ ミシンの角のぬい方の方法を用いて、上図の太線部分をぬい止める。【始めと終わりは返しぬい】

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

身じたくずきんをつくって、活用方法を考えよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

- 【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
 B：どちらかという良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
 C：どちらかというできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
 D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	自己評価				実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
			A	B	C	D		
	① 布をたつ	長さを正しく計ることができた						
	② 印をつける	できあがり線を正しくつけることができた						
	③ まち針をとめる	正しくまち針をとめることができた 裁縫用具の整理整頓						
	④ 片方を なみぬいで ぬう	針に糸を通すことができた						
		玉結びを糸はしにつくることができた						
		できあがり線のとおり細かい針目でなみぬいができた						
		玉どめをぬい糸の根もとにつくることができた						
	⑤ 片方をミシン で直線ぬい	ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
		できあがり線のとおり直線ぬいができた						
		糸はしの始末ができた						
	⑥ ぬいしろの角 を切り落とす 表に返す	ぬい目を切らないように気をつけて、ぬいしろの角を切り落とすことができた						
		ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
	⑦ 角のぬい方で 仕上げる	始めと終わりの返しぬいが正しくできた ミシンで角のぬい方が正しくできた						
☆活用方法を考えよう	【家庭の仕事】		【非常時】					
	<学習のまとめ>							
.....								
.....								
.....								

I 小学校家庭科 1-(2) 題材名：透明なべでごはんをおいしくたいてみよう

【活動のねらい】透明なべとガスによる炊飯で、ごはんがたけるまでの原理を知り、炊飯の技能を身に付ける。

- 米の洗い方    炊飯の水量（水加減）    水にひたす(浸水)時間  
加熱の仕方    蒸らし    ごはんの天地がえ    非常時の炊飯方法

年 組 番 (      ) 班 氏名 \_\_\_\_\_

<材料と分量>

材 料	1 人 分 (g)	(      ) 人 分	2 人 分	
			g	概 量
白米	80 g		160 g	1 カップ
水 (量)	ml		ml	カップ
☆お米の重量に対する水量を計算しよう				

小学校での学習事項  
炊飯の水量計算  
米の体積の1.2倍  
米の重さの1.5倍

計量スプーンの容量と単位  
・大さじ1杯=15ml  
・小さじ1杯=5ml  
計量カップの容量と単位  
1カップ=200ml

<用 具>

透明なべ（文化なべ・厚手のなべでも可）、計量カップ、しゃもじ、洗米用のボウル・ザル（大）

<ごはんのたき方>

- ① 白米を計り、米を洗う。（ひととぎ、みすすぎ）
- ② 白米の分量に対しての水量を用意し、30分以上吸水させる。
- ③ 点火しふっとうするまで強火にする。
- ④ ふっとうしたら中火にする。（ふきこぼれるときには弱火に調節する）
- ⑤ 水が引いて、ふたが動かなくなったら弱火にする。
- ⑥ 火を消し蒸らす。10分間ふたを開けないで置く。

☆ごはんがたけるまでの状態を観察し、図やことばで記録しよう							
ふっとうするまで	→	ふっとうしたら	→	水が引いたら	→	消火後	
<学習のまとめ>				<先生から>			

# I 小学校家庭科 1-(3) 題材名：具しるだくさんの汁じゆものをつくってみよう

【活動のねらい】 県南地域の料理「だんご汁（みそ仕立て）」をつくり、日常だけでなく、非常時にも栄養バランスのとれる簡単な調理技能を身に付ける。

- 野菜    いも    洗う    煮る    だしじるの取り方
- 切り方（たんざく切り，小口切り，いちょう切り）
- 米の粉を用いた郷土料理    栄養バランスを考えた調理の工夫

## <材料と分量>

材 料	1 人 分 (g)	( ) 人 分	4 人 分	
			g	概量 <small>がいりょう</small>
上新粉	1 5		6 0	1/2 カップ°
白玉粉	1 5		6 0	1/2 カップ°
油あげ	6		2 4	1/2 枚
じゃがいも* (北上：二子芋) (盛岡：津志田芋)	2 0		8 0	中 2 個
大根	2 0		8 0	1/10 本
にんじん	1 0		4 0	1/3 本
ねぎ	1 0		4 0	1/4 本
水	1 7 0 ml		6 8 0 ml	
にぼし	5		2 0	約 1 2 ひき
みそ	1 5		6 0	大さじ 3・1/3
しょうゆ				少々
サラダ油				大さじ 1

具だくさんの汁ものは、農繁期の昼食に多く食されていました。米の粉を用いた料理を「しとぎ」といいます。農作業の合間に短時間で食べることができるように、野菜は「ひきな（せん切り）」にするそうです。ここでは切り方の学習もあるので、いちょう切りなどにしました。

\* 中学校家庭分野では、じゃがいもを里芋（北上：二子芋，盛岡：津志田芋など）に変えたり，肉や鮭などを加えたりして，地域食材を用いた郷土料理の工夫として取り組ませることもできます。

## <だんご汁のつくり方>

- ① なべに分量の水を入れ，頭とはらわたを取った煮干しを小さくくんで，入れておく。
- ② 油あげはたんざく切りにする。ねぎは洗ってから，小口切りにする。
- ③ じゃがいも（里芋：二子芋・津志田芋）・大根・にんじんは皮をむき，（たて4等分に切って）いちょう切りにする。
- ④ にぼしの入ったなべをこんろにかけ，強火で加熱する。  
（教科書のみそ汁には，「煮干しは，取り出さずに食べるといいね。」とあるが，だんご汁の場合は，だんごの食感を重視したいので，取り出します。）
- ⑤ 大なべにサラダ油大さじ1を入れ火にかける。油が温まったら，じゃがいも・大根・にんじんを炒め，④のだしじるを加える。ふっとうしたら火を弱めて，あくをすくい取る。
- ⑥ ボウルに上新粉と白玉粉を入れ，少しずつ水を入れながらこねる。耳たぶくらいの固さにして，ひとまとまりにする。一口大のだんご状に丸めて，真ん中をへこませる。
- ⑦ ⑤に，②の油あげ，⑥のだんごを加え，火を通す。
- ⑧ 材料が柔らかくなったら，少量のだしじるで，といたみそを入れる。味をみて，しょうゆを加え，最後に小口切りにしたねぎを加える。

	たんざく切り	小口切り	いちょう切り
☆教科書で切り方を調べて，スケッチしてみよう			

# I 小学校家庭科 1-(3) 題材名：具しるだくさんの汁にちじょうものをつくってみよう

【活動のねらい】 県北地域の料理「せんべい汁」を親子でつくり、日常だけでなく、非常時にも栄養バランスのとれる簡単な調理技能を身に付ける。

- 野菜
- 洗う
- 味をつける
- 栄養バランスを考えた調理の工夫
- 切り方（ささがき、いちょう切り、たんざく切り、ななめ切り）

## <材料と分量>

材 料	1人分 (g)	4～5人分	
		g	概量 <small>がいにょう</small>
水	300ml	1500ml	7と1/2カップ
煮干し	5	25	約15匹
ごぼう	10	50	1/4本
にんじん	20	100	2/3～1/2本
糸こんにゃく	20	100	
豚バラ肉	30	150	(鶏肉でもよい)
料理酒	少々		適量
キャベツ	20	100	約2～3枚(白菜可)
しめじ	10	50	1/2パック
せんべい	3枚		15枚
しょうゆ	15	75ml	大さじ5
みりん	15	75ml	大さじ5
塩	少々		適量
ねぎ	10	50	1/3本

### 塩の手ばかり

塩を2本の指でつまむと小さじ1/5, 約1g  
塩を3本の指でつまむと小さじ1/3, 約1.7g  
塩をひとにぎりすると大さじ2, 約30g

### 計量スプーンの容量と単位

- ・大さじ1杯=15ml
- ・小さじ1杯=5ml

### 計量カップの容量と単位

1カップ=200ml

## <せんべい汁のつくり方>

**注意** 小学校家庭の実習では、細菌性食中毒などの未然防止のため、生の肉・魚を子どもたちに扱わせないという制限事項があります。肉の調理は保護者が行ってください。

- ① **子ども**：頭とはらわたを取った煮干しを、小さくくだいてなべに入れる。  
**保護者**：大きいなべに水1500ml（カップ7と1/2杯）を入れ、火にかける。  
小なべに200mlの湯をわかし、糸こんにゃくを湯どおしする。【臭み消し】
- ② **子ども**：人参の皮を皮むき器でむいてから、（たて4等分に切って）いちょう切りにする。  
**保護者**：ごぼうの皮を包丁の背でこそげ取って、ささがきにする。
- ③ **子ども**：ふっとうしたら、火を中火にする。  
**保護者**：水を入れたボウルを用意し、おたまでアクをすくう。【子どもに体験させてもよい】
- ④ **子ども**：キャベツをよく洗い、4センチ長さに切ってから、2センチ幅のたんざく切りにする。しめじの石づきを切り落とし、よく洗いながらほぐす。  
**保護者**：豚バラ肉を3～4センチ長さに切って、料理酒をふっておく。
- ⑤ **子ども**：竹串で、人参に火が通ったかを確認する。せんべいを4等分に割っておく。  
ねぎを洗い、ななめ切りにする。  
**保護者**：人参に火が通ったら、キャベツ、しめじ、肉を入れる。肉に火が通ったら、しょうゆ、みりん、塩で味を調べ、4等分に割ったせんべいとねぎを入れて、5分ほど煮込むとできあがり。どんぶりに盛りつけて、お好みで唐辛子やキムチの素、粉チーズをトッピングしてみましよう。

【参考】『かやきせんを使ったせんべい汁のおいしい作り方』（株）小松製菓



【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

地域の郷土料理の中から、具だくさんの汁ものを作ってみよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

郷 土 料 理 名				
材料となる地域の食材				
<材料と分量>				
材 料	1人分 (g)	( ) 人分		備 考 (先生から)
		g	が い り よ う 概 量	
<調理の工夫と作り方・調理計画>				
①				

## I 小学校家庭科 1-(4) 題材名：落ちないネックタオルをつくってみよう

【活動のねらい】 不要衣料を用いて、暑さ・寒さを防ぐ生活に役立つ物をつくり、暑さ・寒さを防ぐ住まい方の工夫とのかかわりを考える。

- 不要衣料の活用
- 印つけ
- 正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き
- ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい）
- 快適な着方の工夫
- 暑さ・寒さに対処した住まい方の工夫

### <材 料>

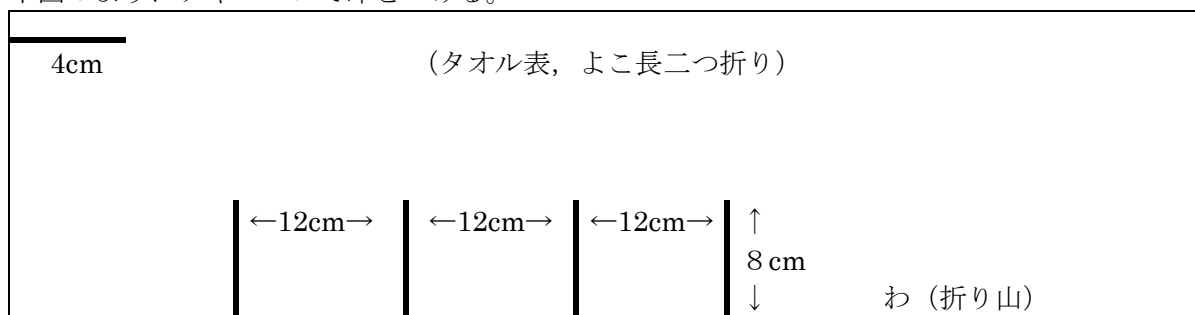
- ・うす手のタオル
- ・ミシン糸（手ぬい糸で、本返しぬいでつくらせてもよい）

### <用 具>

ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、まち針、糸切りばさみ（手ぬいの場合は、手ぬい針（短針）、指ぬき）

### <落ちないネックタオルのつくり方>

- ① タオルをよこ長の二つ折りにする。
- ② 下図のようにチャコペンで印をつける。



タオルの長さの  $\frac{1}{3}$  に 8 センチのできあがり線を引き、さらに、左に 1 本、右に 2 本 12 センチ間かくに、できあがり線を引く。  
\*保冷剤や使い捨てカイロのミニサイズの長さを計り、たてよこ 1 cm のゆとりを加えた長さで、できあがり線を引いてもよい。

- ③ ②で印を付けたところにまち針をとめる【ぬう方向に対して垂直にとめること】
- ④ できあがりの印にそって、ミシンでぬう。【始めと終わりは返しぬい】
- ⑤ 糸はしの始末をする。



【図1】 つくり方③④



【図2】 完成図

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

落ちないネックタオルをつくってみよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

- 【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
 B：どちらかというと良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
 C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
 D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	自己評価				実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
			A	B	C	D		
	①タオルを二つ折りにする	不要タオルの準備ができた						
		できあがり線を正しくつけることができた						
	②印をつける	正しくまち針をとめることができた						
		③まち針をとめる	裁縫用具の整理整頓					
	④ミシンでぬう（直線ぬい）	ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
	⑤糸はしの始末	できあがり線のとおり直線ぬいができた						
		糸はしの始末ができた						
☆暑さ・寒さを防ぐ工夫を考えよう	ネックタオルに保冷剤を入れて、首に巻いたときの感じ方		ネックタオルに使い捨てカイロを入れて、首に巻いたときの感じ方					
	【暑さを防ぐ住まい方の工夫】		【寒さを防ぐ住まい方の工夫】					
	<学習のまとめ>					<先生から>		
.....								
.....								
.....								
.....								

## I 小学校家庭科 2-(1) 題材名：家族の団らんを計画しようー小袱紗つくりー

【活動のねらい】 家族との団らんを計画し、家族のふれ合いや近隣の人々とのかかわり方を工夫する。日本では、大切なものやいただくものを布にはさんだり、<sup>つ</sup>包んだり、<sup>か</sup>掛けたりして大切にしてきた。教科書には、ランチョンマットやコースターが食器の下に敷くものとして紹介されているが、日本の伝統・生活文化の体験を通して、家族の団らんを計画し、さらにお世話になっている近隣の人々へのかかわり方の工夫に発展させよう。

- 余り布や木綿衣料の活用       型紙づくり     印つけ       布をたつ
- 布地の合わせ方（中表）       正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き       ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい・角のぬい方）
- 玉結び     なみぬい     かがりぬい     玉どめ
- 家族とのふれあいの工夫       近隣の人々へのかかわり方の工夫

### <材 料>

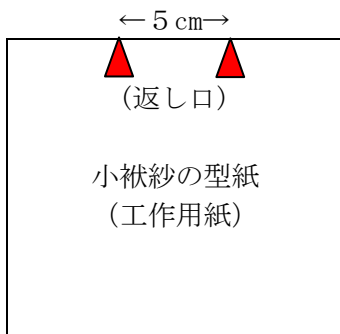
- ・ 工作用紙
- ・ 綿 100%の布（普通地）：たて 17cm×よこ 32cm を 1 枚（ぬいしろ 1 cm を含む）
- ・ ミシン糸（手ぬい糸で、なみぬいでつくらせてもよい）

### <用 具>

紙用はさみ

ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、まち針、ぬい針（長針）、糸切りばさみ（手ぬいの場合は、ぬい針（短針）、指ぬき）

### <小袱紗（古服紗・古帛紗）のつくり方>



【図1】①型紙づくり

① 工作用紙をたて 15cm×よこ 15cm に切り、型紙をつくる。1 辺に 5 cm の返し口の印をつける。【図 1】

② たて 17cm×よこ 32cm に布をたつ。

③ ②の布を中表半分折り、工作用紙でつくった型紙を用いて、できあがり線と返し口の印をチャコペンでつける。【図 2】

④ 返し口、角の順に、まち針をとめる。（しつけをかける）

⑤ 印のとおりミシンでぬう。

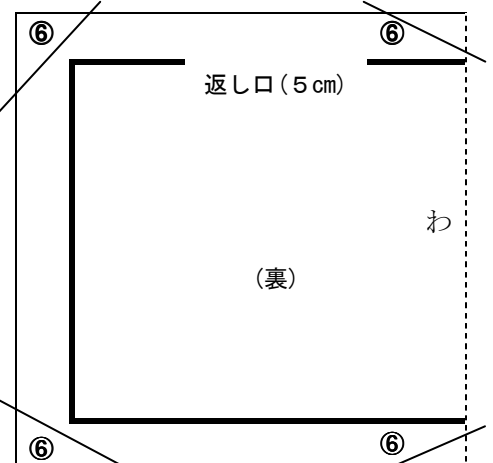
【始めと終わりは返しぬい】

⑥ ミシンのぬい目を切らないよ

うに、4つの角を切り落とし、返し口から表に返す。【図 2】

⑦ まち針で角を整え、必要な場合はアイロンをかける。

⑧ 返し口を手ぬいでかがるか、ミシンで周りにステッチをかける。【完成】



【図2】③印つけ、⑥角の切り落とし

日本の布模様には、人々の願いや意味が込められています。例えば、麻の葉模様はすくすくと真っ直ぐに成長する特徴をもっているだけでなく、とても丈夫であるために「子どもが丈夫に育つように」という親の願いが込められています。ふくろうは知恵袋で学問の神様とされ、不苦労とも書き、苦労知らずともたえられます。長寿な鳥で、不老長寿で長生きできると喜ばれたり、福籠とも書き、福が籠るとされ、縁起の良い鳥とされている。家族やお世話になっている人々への思いを模様に入れたり、思い出のある木綿衣料を再利用して、小袱紗をつくりましょう。

布合わせの楽しさを味わわせる場合は、17センチ四方の布を2枚用意して、中表にしてぬい合わせてつくることもできます。

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

家族の団らんを計画しようー小袱紗こぶくさ（古服紗・古帛紗）つくりー

年 組 番（ ） 班 氏名

- 【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
 B：どちらかという良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
 C：どちらかというできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
 D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

☆家族や近隣の人々の中から、小袱紗こぶくさをつくって贈る人を決めよう。

私は\_\_\_\_\_に、小袱紗こぶくさをつくって贈りたいです。

理由は、\_\_\_\_\_です。



☆お世話になっていることへの感謝の気持ちや小袱紗こぶくさをつくって贈る人への思いと合う布地の模様を考えましょう。贈る人との間に思い出がある木綿衣料を再利用して、つくってもいいです。

私は小袱紗こぶくさの布地を\_\_\_\_\_にしました。

理由は、\_\_\_\_\_です。

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	布を選ぶ ①型紙をつくる	家族や近隣の人々にお世話になっていることに気付く 贈る人への思いを考え、布選びを工夫することができた 型紙をたて 15 cm × よこ 15 cm に、正しく切ることができた 型紙に返し口の印を正しくつけることができた						
	②布をたつ ③印をつける ④まち針をとめる (しつけをかける)	むだなく布をたつことができた 型紙を使って、できあがり線を正しくつけることができた 正しくまち針をとめることができた 裁縫用具の整理整頓						
	⑤ミシンでぬう ⑥ぬいしろの角を切り落とす ⑦角をととのえる ⑧返し口の始末	ミシンの上糸と下糸の準備ができた 始めと終わりの返しぬいが正しくできた できあがり線のとおり直線ぬいができた ぬい目を切らないように気をつけて、ぬいしろの角を切り落とすことができた 角をととのえ、返し口がきれいに始末できた						

## I 小学校家庭科 2-(1) 題材名：家族の団らんを計画しようーおいしいお茶の入れ方

【活動のねらい】 家族との団らんを計画し、家族のふれ合いや近隣の人々とのかかわり方を工夫する。日本茶のおいしい入れ方の実習を通して、家族や近隣の人々への思いを込めてつくった小袱紗の活用方法を考え、贈り方を工夫する。

- 清潔な身じたく  家庭科室（調理室）の安全な使い方
- 計量のしかた  ガスこんろ（IHクッキングヒーター）の安全な使い方
- ふっとうの様子  おいしいお茶の入れ方  後片付け
- 家族とのふれあいの工夫  近隣の人々へのかかわり方の工夫
- 茶がらの有効活用

### <材料と分量（1人分のめやす）>

- ・せん茶・・・2g（小さじ1）【茶さじ1はいは、約3gで2人分】
- ・お湯・・・100ml（適量）【ふっとうした湯を少しさましてから用いる】

### <用 具>

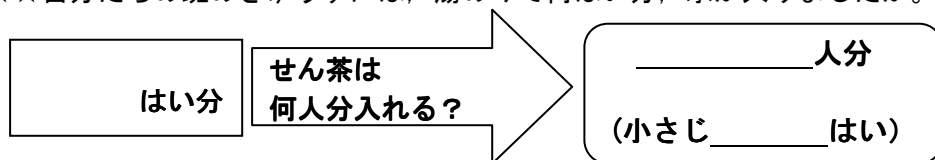
計量カップ、計量スプーン（小さじ）または茶さじ、やかん、きゅうす、湯のみ茶わん、茶たくおぼん

### <おいしいお茶の入れ方>

- ① 人数分の水を入れたやかんをこんろにかけ、点火する。（蒸発分の水を入れてもよい。）
- ② 湯のみ茶わんの8分目くらいに水を入れ、きゅうすに何はい入るか確認して、せん茶の量を決める。

☆ きゅうすに、湯のみの水が3はい分しか入らないとき、きゅうすに、せん茶は何人分入れたらいいか考えてみましょう。

☆☆自分たちの班のきゅうすには、湯のみで何はい分、水が入りましたか。



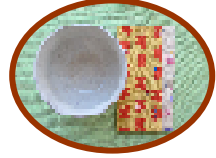
- ③ ふっとうをたしかめ、火を消す。
- ④ 湯のみ茶わんを温めるために7分ほどにお湯を注ぎ、同じくきゅうすを温めるために適量のお湯を注ぎ、ふたをする。
- ⑤ 茶わんときゅうすが温まったら、中の湯を捨てて。【捨てる湯でやけどをしないように注意】
- ⑥ ②で確認したお茶の葉の量を、小さじ（または茶さじ）で計り、きゅうすに入れる。少しさました湯を、きゅうすに入れて、すぐふたをする。
- ⑦ お茶の葉の、うまみと香りが、お湯の中にとけだしてくるのを、1分くらい待つ。
- ⑧ 人数分の湯のみ茶わんに注ぐ。分量やこさが同じになるように、少しずつ注ぐ。2はい目も、おいしく飲めるように、きゅうすのお茶は残さず注ぐ。きゅうすが小さい場合は、⑦～⑧をくり返す。
- ⑨ おぼんに茶わんと茶たくをのせて運ぶ。茶たくに茶わんをのせ、お茶を出す。左手のひらに小袱紗を二つに折りにし、その上に茶わんをのせて、相手にお茶を差し出してもよい。
- ⑩ 家族や近隣の方々への思いを込めてつくった小袱紗の活用方法と、贈り方を工夫する。

【参考文献】 小笠原清信(1994), 『完全図解くらしのマナー全書』, 東陽出版株式会社  
広田千悦子(2008), 『おうちで楽しむにほんのもてなし』, 技術評論社

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

おいしいお茶に合うおやつを用意して、お茶会を計画しよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

おやつ名				
お茶の種類 <small>しゅるい</small>				
<材料と分量>				
材 料	1人分 (g)	( ) 人分		備 考 (先生から)
		g	<small>がいりょう</small> 概量	
お茶( )	2			
<おやつの工夫と作り方・調理計画>				
①				

## I 小学校家庭科 2-(2) 題材名：安全・安心なマイルーム収納を考えよう

【活動のねらい】住まいの暮らし方に関心をもって、自分の身の回りの物の整理・整とんの仕方が分かり、安全・安心なマイルームの収納を工夫する。突然の大きな揺れにおそわれたときには、とにかく自分の身を守ることが先決。第1次の避難行動として、棚や棚にのせてある物、家電製品などが落ちてくる可能性もあるので、落下物から頭を守り、揺れが収まるのを待つことが大切である。日常から身の回りの物の整理・整とんを心がけることが、非常時の避難行動に役立つことを知り、実生活で実せんする。

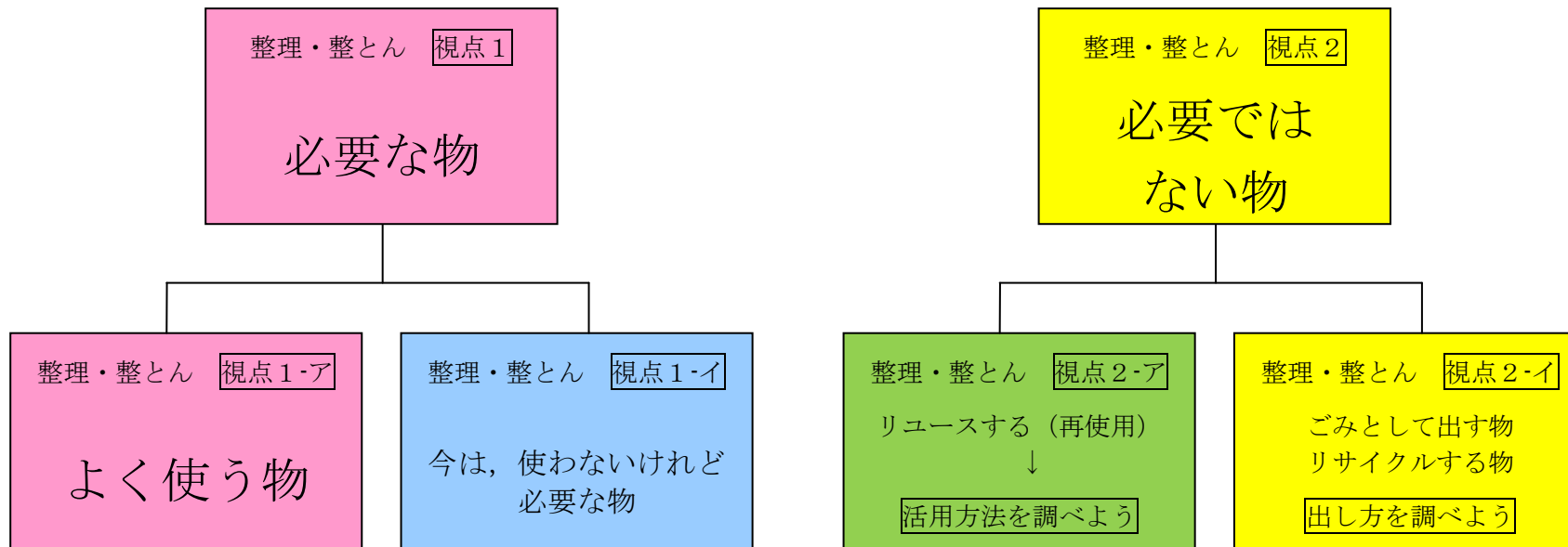
- 住まいの暮らし方に関心をもつ
- 家庭の仕事
- 整理・整とんの仕方
- 収納方法の工夫
- 安全・安心な生活を考える
- 地震のときに身を守るための机下の整理
- 頭上からの落下物を防ぐ収納の工夫
- 環境を考えた生活の工夫
- 物の使い方の工夫（不要品の活用、ごみの減量や分別、リサイクル・リユースなど）

### <教 具>

整理・整とんの思考カード

### <教具のつくり方>

児童の思考を広げたり、意志決定させたりする視点をA4用紙に印刷し、ラミネート加工して、裏側にマグネットシートを貼る。





【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

安全・安心なマイルーム収納を考えよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

<p>&lt;身の回りの物の整理・整とん&gt;</p> <p>①「整理」は捨てること          ☆<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必要な物</span>と<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必要ではない物</span>を分けて、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必要ではない物</span>を捨てよう。</p> <p>②「整とん」は物の置き方          ☆<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必要な物</span>のうち、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よく使う物</span>を、使いやすいように置き場所を決めよう。   <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 150px;">今は使わないけれど必要な物</span>は、収納場所を決めよう。</p>			
<p>☆学習机(学習用品, 本・雑誌など)を調べよう 自分の学習机の様子を図やことばで記入しよう</p>	<p>☆地震のときに身を守るための学習機の整理・整とんについて考えよう</p>		
<p>☆上段の棚<sup>たな</sup>☆</p>	<p>① 頭上からの落下物を防ぐ収納の工夫を考えよう</p>		
<p>☆中段の棚☆</p>			
<p>下段の棚</p>			
<p>机の上</p>	<p>② 地震のときに身を守るために、学習机の下の整理を考えよう</p>		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">引き出し</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">引き出し</td> </tr> </table>		引き出し	引き出し
引き出し		引き出し	
<p>☆机の下☆</p>			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">引き出し</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">引き出し</td> </tr> </table>	引き出し	引き出し	
引き出し	引き出し		
<p>☆家庭での実せんの様子をお家の方に記入してもらいましょう</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>&lt;先生から&gt;</p>		

I 小学校家庭科 2-(3) (中高可) 題材名：非常時の家族との連絡方法を確認しよう

【活動のねらい】 災害が発生したときに自分の身を守るための避難行動について、家族と話し合う。

- 家庭での防災会議（一人ひとりの役割、避難場所と避難路、連絡方法など）
- 家族との連絡方法の確認（家庭との連携による実践）
- 自宅（学校・予想される遊び場など）からの避難路の確認
- 地域で発生しやすい災害を予測する       火災による二次災害を防ぐ方法

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

非常時の家族との連絡方法を確認しよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆東日本大震災津波に起きた「困ったこと」を思い出して、書いてみよう。

●連絡がつかない

●公共の交通機関がストップ

対 策

対 策

「非常時の連絡手段」を決めておきましょう。災害用伝言サービス以外にも、手書きの伝言メモを残す場所を決める、なども有効です。

震災後の混乱時に暗くなってからの徒歩帰宅は逆に危険になる可能性もあります。体力や準備が不十分な場合は、安全な場所に避難し、<sup>たいき</sup>明るくなるまで待機しましょう。

☆いざというときでも落ち着いた行動を

【地震発生時の行動心得5か条】

- ①大きな揺れを感じたら身を守る
- ②落ち着いて火の始末をする  
(ガスの元栓、電気のブレーカーなど)
- ③あわてて外に飛び出さない
- ④戸を開けて出口の確保をする
- ⑤正しい情報で行動する  
↑ 報道機関や市区町村、消防・警察からの情報に注意する

【津波】

海岸・河川敷周辺にいて、強い地震や長い時間（1分以上の揺れ）を感じたらすぐ避難する。できるだけ山側へ、より高い所（鉄骨及び鉄筋コンクリートの堅牢<sup>けんろう</sup>な建物）へすぐに避難する。  
(堅牢の意味：堅くてじょうぶなこと)

【台風などの風水害】

避難勧告<sup>かんこく</sup>が出たり、危ないと感じたときは、近隣所の人と連絡を取り合い早めに避難する。

【参考文献】 セコム株式会社「子を持つ親の安全委員会」監修(2012),

『わが子を守る家族の安全マニュアル』, 株式会社ケーズ・パブリッシング

【参考 Web ページ】 総務省ホームページ>消防庁>防災マニュアルー震災対策啓発資料ー

[http://www.fdma.go.jp/bousai\\_manual/index.html](http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/index.html)

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して、予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し、手書きの伝言メモを用意して、残す場所も決めよう。

私【学校から避難するときの伝言メモ】	私【自宅から避難するときの伝言メモ】	私【 から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日
性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型
学校名	学校名	学校名
緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しよう－家庭での防災会議を開こう－

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して、予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し、手書きの伝言メモを用意して、残す場所も決めよう。

父【職場から避難するときの伝言メモ】	父【自宅から避難するときの伝言メモ】	父【 から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日
性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型	性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型	性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しよう－家庭での防災会議を開こう－

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して、予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し、手書きの伝言メモを用意して、残す場所も決めよう。

母【職場から避難するときの伝言メモ】	母【自宅から避難するときの伝言メモ】	母【 から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日
性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型	性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型	性別 男・女 血液型 Rh+・－ 型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して、予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し、手書きの伝言メモを用意して、残す場所も決めよう。

【学校から避難するときの伝言メモ】	【自宅から避難するときの伝言メモ】	【 から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日
性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型
学校名	学校名	学校名
緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して、予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し、手書きの伝言メモを用意して、残す場所も決めよう。

【職場から避難するときの伝言メモ】	【自宅から避難するときの伝言メモ】	【 から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日	生年月日 年 月 日
性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型	性別 男・女 血液型 Rh+・- 型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）	緊急時連絡先（親戚、 <sup>しんせき</sup> 知人など） ふりがな （氏名） （電話） （メールアドレス）
避難場所	避難場所	避難場所

## I 小学校家庭科 2-(4) 題材名：ナップザックを防災袋にリフォームしよう —家庭用防災袋に何を入れておくか考えよう—

【活動のねらい】布を用いた身の回りの生活に役立つ物として製作したナップザックや、家庭で使わなくなった袋ものを、防災袋にリフォームし、非常時の避難生活に必要な備蓄品<sup>びちくひん</sup>や持ち出すべきものを考える。さらに、製作した家庭用防災袋に備蓄品を入れて、実際の避難路を歩いて確かめ、我が家の非常時の備えを見直す。

- 物の使い方の工夫（不要品の活用）
- 布地の有効な使い方
- 玉結び
- 返しぬい
- 玉どめ
- アイロンの使い方と安全な取り扱い
- 自宅（学校・予想される遊び場など）からの避難路の確認
- 地域で発生しやすい災害を予測する
- 安全・安心な生活を考える

### <材 料>

- ・ ナップザックまたは、家庭で使わなくなった袋もの
- ・ プリントできる布<縫い付けタイプ>A4サイズコットン綿100%（河口株式会社）  
またはアイロン転写紙（※）と綿100%白生地（綿ブロード）21cm×30cm
- ・ しつけ糸、手ぬい糸、ミシン糸

### <用 具>

家庭用インクジェットプリンター、紙用はさみ、ものさし（竹尺）、チャコペン、たちばさみ、まち針、ミシン、手ぬい針（長針）、指ぬき、糸切りばさみ



### <避難路確認に必要な教材>

- ・ 1.5リットル入りのペットボトル2本
- ・ バスタオル1枚、タオル2枚など衣料品

### <家庭用防災袋のつくり方>

- ① プリントできる布に防災袋の表示を印刷する。  
※アイロン転写紙の場合は、白生地をナップザック本体にぬいつけてから、プリントアウトしたシートをアイロンで転写する。
- ② 防災袋の表示の上部を三つ折りして、ミシンでぬう。
- ③ 防災袋の表示がポケットになるように、両端→底の順番に二つ折りにして、ナップザックにまち針でとめる。（必要に応じてしつけをかける）
- ④ 防災袋の表示の両端と底を、ナップザックに本返しぬいでぬいとめる。



- ☆ 防災袋に、人間が一日に必要な水量のめやす3リットルと衣料品を入れて、自宅から避難所までの避難路を歩いてみよう。
- ☆ 避難所の備蓄品を調べ、家庭用防災袋には何を入れておくか考えよう。



# 家庭用防災袋

住所	
氏名	
緊急時 連絡先	
避難場所	

---

# 家庭用防災袋

住所	
氏名	
緊急時 連絡先	
避難場所	



【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

### 家庭用防災袋に何を入れておくか考えよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

☆ 避難所の備蓄品を調べ、家庭用の防災袋には何を入れておくか考えよう。 非常持出品の重さは、成人男性で15kg、女性で10kgが目安である。自分が背負える（無理なく避難できる）重さを確認して、家庭用防災袋に入れておく物を整理しよう。						
☆ 家庭用防災袋の置き場所も、家庭での防災会議で決めておこう。						
消防庁防災マニュアルの例		家庭用防災袋に用意する物				
常時携行品 ※	懐中電灯	/	※ いつも持ち歩くバック などに入れておく			
	携帯ラジオ					
	笛・ホイッスル					
	避難カード【避難伝言メモ】					
	避難用マップ					
消防庁防災マニュアルの例		避難所に備蓄されている物	自分			
非常用持ち出し品	貴重品類	現金10円				
		預金通帳				
		印鑑				
		保険証				
		免許証				
	避難用具	懐中電灯				
		携帯ラジオ				
		予備の乾電池				
		ヘルメット・防災ずきん				
	生活用品	厚手の手袋				
		毛布				
		缶切り				
		ライター・マッチ				
		ナイフ・はさみ				
		携帯用トイレ				
	救急用具	救急箱				
		処方箋の控え				
		胃腸薬・便秘薬・持病の薬				
		生理用品				
	非常食品	乾パン				
缶詰						
栄養補助食品						
あめ・チョコレート・ナッツ類						
飲料水（煮沸したもの）						
衣料品	下着・靴下					
	長袖・長ズボン					
	タオル・バスタオル					
	防寒用ジャケット・雨具					
その他	携帯用カイロ					

【参考 Web ページ】 総務省ホームページ>消防庁>防災マニュアルー震災対策啓発資料ー

[http://www.fdma.go.jp/bousai\\_manual/index.html](http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/index.html)

## Ⅱ 中学校家庭分野 1-(1) 題材名：安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう

【活動のねらい】地域の食文化調べや、郷土料理の調理計画の話し合いなどの活動を通して、安全・安心な食生活について考える。さらに、地域の食材を生かした伝統的な郷土料理をつくり、日常だけでなく、非常時にも栄養バランスのとれる基礎的な調理技能を身に付ける。

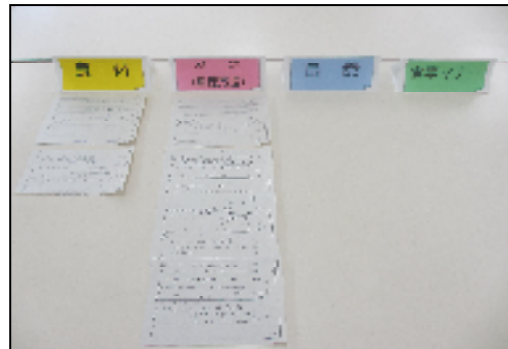
- 家族や地域の人々を対象とした調査活動（情報の収集）
- 郷土料理の調理計画に必要な情報の分類・整理  調理計画
- 基礎的な調理技能の活用  栄養バランスを考えた調理の工夫
- 郷土料理と非常食・災害食の相違【単一の調理器具と熱源で調理、具たくさん(主食・主菜・副菜)の汁もの、ごみの出ない食材など】
- 安全・安心な食生活を考える
- 生鮮食品の流通（生産者と消費者のかかわり）
- 食品添加物の表示と種類（加工食品の選び方）
- 食品の保存のしかた（購入・調理・保存、大切な食べものを無駄にしない工夫）

### <教 材>

- ・学習シート「地域の食文化インタビューカード」
- ・地域の食文化インタビューカード卓上表示 「食材（地域）」 「食材（季節）」  
「料理（調理方法）行事食」 「料理（調理方法）郷土料理」 「食器」 「食事のマナー」
- ・学習シート「安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう」

### <活動の進め方>

- ① 「地域の食文化インタビューカード」を用いて、地域の食文化について調べ、情報を収集する。
- ② 家族や地域の人々にインタビューした情報をカードに記入し、切り離す。
- ③ 「地域の食文化インタビューカード分類卓上表示」を組み立て、②のカードを食文化の内容に合わせて分類・整理する。
- ④ 分類・整理したカードのうち、食材（地域）と料理（調理方法）行事食にポイントをしぼって、地域の食文化について調べたことをまとめる。地域の食材を生かした調理や地域の伝統的な郷土料理について、特徴や調理方法を具体的にまとめ、発表する。
- ⑤ 地域の食文化について調べたことをもとにして、郷土料理の調理計画を立てる。郷土料理の特徴から、単一の調理器具と熱源での調理、主食・主菜・副菜のバランスが整っている具たくさん(汁もの)の、できるかぎりごみの出ない食料などの非常食・災害食の調理との相違点を考え、調理方法を工夫する。
- ⑥ 地域の食材や地域の伝統的な郷土料理の調査と調理活動から、安全・安心な食生活を考える。  
(視点：生鮮食品の流通、食品添加物の表示と種類、食品保存のしかたなど)



### 【参考文献】

- 坂本廣子・坂本佳奈著(2011), 『がんばらなくても大丈夫台所防災術』, 農文協
- 清田久美子編(2009), 『郷土料理のおいしいレシピ東日本編』, 教育画劇
- 新潟大学地域連携フードサイエンス・センター編(2008), 『これからの非常食・災害食に求められるものー災害時に必要な食の確保ー』, 光琳
- (財)ベターホーム協会(2007), 『大切な食べものを無駄にしない本』, ベターホーム出版局
- 岩手県食文化研究会(2006), 『岩手に残したい食材 30 選』, 農文協

地域（郷土・地元）の食文化（食にまつわる伝統文化）インタビューカード

市立 中学校 年 組 番 名 前

1 あなたが聞いてきた話は、次のどれに当てはまりますか？

- 食材（季節・地域）       料理（行事食・郷土料理）  
 食器                               食事のマナー

2 誰にインタビューしましたか？

\_\_\_\_\_ さん

3 それはどこの地域の話ですか？

\_\_\_\_\_ 都 道 府 県  
\_\_\_\_\_ 市 町 村

【地域の食文化インタビューメモ】

.....

.....

.....

.....

地域（郷土・地元）の食文化（食にまつわる伝統文化）インタビューカード

市立 中学校 年 組 番 名 前

1 あなたが聞いてきた話は、次のどれに当てはまりますか？

- 食材（季節・地域）       料理（行事食・郷土料理）  
 食器                               食事のマナー

2 誰にインタビューしましたか？

\_\_\_\_\_ さん

3 それはどこの地域の話ですか？

\_\_\_\_\_ 都 道 府 県  
\_\_\_\_\_ 市 町 村

【地域の食文化インタビューメモ】

.....

.....

.....

.....

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

郷 土 料 理 名				
材料となる地域の食材				
＜材料と分量＞				
材 料	1人分 (g)	( ) 人分		備 考 (先生から)
		g	<small>が</small> いりよう 概量	
＜調理の工夫と作り方・調理計画＞				
①				

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食材（季節）」

# 食材（季節）

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食材（地域）」

# 食材（地域）



【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「料理（調理方法）郷土料理」

# 料理（調理方法） 郷土料理

# 料理（調理方法） 行事食

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食器」

食器

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食事マナー」

食事マナー



## Ⅱ 中学校家庭分野 1-(2) 題材名：家族にマイ箸袋を作ってあげよう

【活動のねらい】小中の裁縫技能・技術を活用してマイ箸袋を製作し、日常と非常時での活用方法を家族と一緒に考える。

- 余り布や木綿衣料の活用
- 型紙づくり
- 印付け
- 布地の裁断
- 布地の合わせ方（中表）
- 正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き
- ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線縫い（始めと終わりの返しぬい、角の縫い方）
- 手ぬい針に糸を通す
- 玉結び
- 並縫い
- 玉どめ
- スナップボタンつけ（丈夫につける方法）
- 環境に配慮した消費生活の工夫と実践

### <材 料（箸 1 膳分）>

- ・工作用紙
- ・綿 100%の布地（普通地）縦 28 cm×横 19～26 cm（箸の長さによって調節する）
- ・スナップボタン 2 組
- ・ミシン糸（手縫い糸で、並縫いと本返し縫いで作らせてもよい）
- ・手縫い糸 30 番（スナップボタンつけ用）

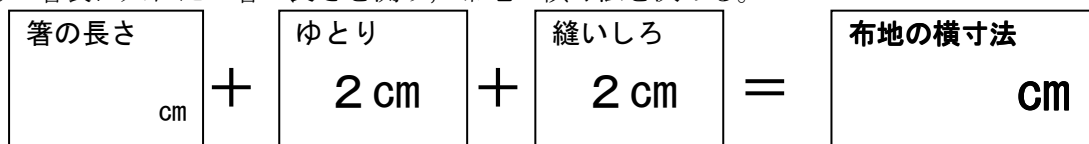
### <用 具>

紙用はさみ

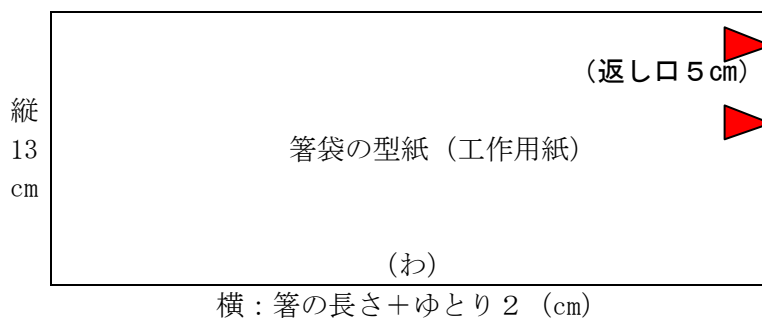
ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、裁ちばさみ、まち針、縫い針（長針）、糸切りばさみ、（手縫いの場合は、縫い針（短針）、指ぬき）

### <箸袋の作り方>

① 箸袋に入りたい箸の長さを測り、布地の横寸法を決める。



② 縦 13 cm×横（箸の長さ＋ゆとり 2）cm の寸法で型紙を作り、縦方向の端から 1 cm のところに、5 cm の返し口の印を付ける。



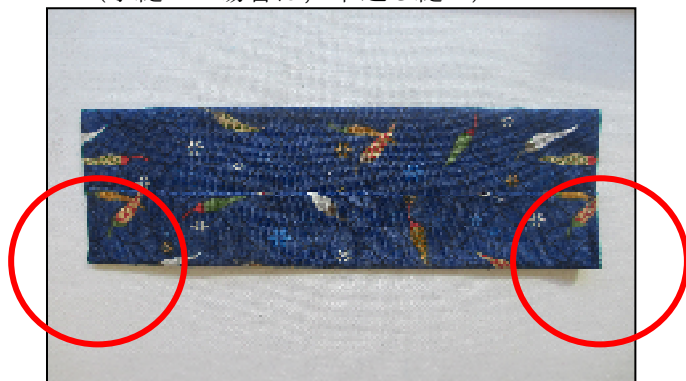
③ 布地を中表二つ折りにして型紙を当て、わの部分を除いて除いて縫いしろ 1 cm を測り、チャコペンで印を付け、布地を裁断する。

型紙を用いて、出来上がり線と返し口の印をチャコペンで付け、まち針をとめる。

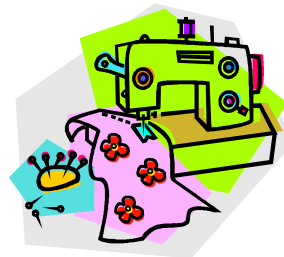
- ④ ③の出来上がり線のとおりミシンで縫う。  
 【始めと終わりは返し縫い】  
 (手縫いの場合は、細かい針目の並縫い)
- ⑤ 4つの角をミシンの縫い目を切らないように、切り落とし、返し口から表に返す。【写真1】
- ⑥ まち針で角を整え、必要な場合はアイロンをかける。
- ⑦ 返し口側を縦1/3折り上げ、ミシンで縫い、箸を入れる袋部分を作る。【写真2】  
 (手縫いの場合は、本返し縫い)



【写真1】④本縫い、⑤角の切り落とし



【写真2】⑦袋部分を作る



- ⑧ 蓋になる部分を被せ、スナップボタン<sup>かぶ</sup>付け位置を確認する。  
 蓋部分には凸型、袋部分には凹型のスナップボタンを縫いつける。【写真3】【完成】  
 【教科書でスナップボタンを丈夫につける方法を確認する】



【写真3】⑧スナップボタンつけ

入れたい物の大きさを測り、布地の縦横の寸法を変えると、通帳や保険証などの貴重品ケース、薬入れ、ペンケースや名刺入れも作れます。  
 小学校家庭科の裁縫技能と中学校技術・家庭科家庭分野で学習するスナップボタン付けを活用した教材です。

☆マイ箸袋や貴重品ケースなどを家族や地域の方々に作って贈り、日常と非常時での活用方法について、一緒に考えてみよう。



【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

「布を用いた物の製作，生活を豊かにするための工夫」の事前調査用紙

年 組 番 ( ) 班 氏名

Q. 1 小学校家庭科での「生活に役立つ物の製作」実習では，どんな物を製作しましたか？ また，その製作した物はどんな裁縫技能を活用しましたか？			
学 年	作 品 名	活用した裁縫技能を○で囲みましょう	
小学校 5年生	基礎縫い練習布	ボタンつけ 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい その他 ( )	
		ボタンつけ 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい その他 ( )	
小学校 6年生		ボタンつけ 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい その他 ( )	
		ボタンつけ 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい その他 ( )	
Q. 2 次の裁縫技能について「できる」「やったことがあるが，今は自信がない」「全くやったことがない」のいずれかを答えてください。			
ア 針に糸を通す (糸通しを使わずに)	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
イ 玉結び	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
ウ 玉どめ	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
エ 手ぬい (並ぬい)	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
オ 手ぬい (返しぬい)	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
カ 手ぬい (かがりぬい)	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
キ ミシンの上糸かけ	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
ク ミシンの下糸巻(ホビソ)	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
ケ ミシンのボビンセット	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
コ ミシンでの返し縫い	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
サ ミシンでの直線縫い	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
シ ミシンでの角の縫い方	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
ス ボタンつけ	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
セ	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
ソ	できる	やったことがあるが，今は自信がない	全くやったことがない
☆ 製作実習で出来るようになりたいことを書きましょう			<備考>



【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

家族にマイ箸袋を作ってあげよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

- 【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
 B：どちらかという良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
 C：どちらかというできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
 D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	自己評価				実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
			A	B	C	D		
	① 用布の寸法を計算する	箸の長さに合った用布の寸法を正しく計算することができた						
		型紙を箸袋の出来上がりの寸法に合わせて作ることができた						
	② 型紙作り	型紙に返し口の印を正しく付けることができた						
		無駄なく布地を裁断することができた						
	③ 布地の裁断 印付け	型紙を用いて、出来上がり線を正しく付けることができた						
		正しくまち針をとめることができた						
		ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		④ 本縫い ・ミシン：直線縫い ・手縫い：並縫い	始めと終わりの返し縫いが正しくできた					
	⑤ 縫いしろの角を切り落とす	出来上がり線のとおり直線縫い（角の縫い方）ができた						
		縫い目を切らないように気をつけて、縫いしろの角を切り落とすことができた						
	⑥ 角を整える	角を整え、アイロンを安全にかけることができた						
		⑦ 袋部分を縫う	厚みのある袋部分を、きれいに縫うことができた					
	⑧ スナップボタン付け (丈夫につける方法)	スナップボタンを丈夫に縫いつけることができた						
		マイ箸袋の活用方法を考えることができた						
		マイ箸袋の応用作品を考え、製作計画を立てることができた						
		【日常】	【非常時】					
☆活用方法を考えよう	<学習のまとめ（マイ箸袋の応用作品を考え、作ってみよう）>						<先生から>	
	.....							
	.....							
	.....							

## Ⅱ 中学校家庭分野 1-(3) 題材名：住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう

【活動のねらい】 住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫し、製作計画を立てる。  
工夫した小物を製作し、日常と非常時の活用方法を考える。

- 余り布や不要衣料の活用     型紙づくり     印付け     布地の裁断
- 布地の合わせ方（中表）     正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き     ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線縫い（始めと終わりの返しぬい、角の縫い方）
- 手縫い針に糸を通す     玉結び     並縫い     まつり縫い     玉どめ
- ボタンつけ（2つ穴・4つ穴ボタン、足付きボタン）
- スナップボタンつけ（丈夫につける方法）
- 生活を豊かにするための工夫する     快適な住まい方の工夫
- 衣生活又は住生活についての課題と実践     住まいの安全・安心対策
- 節電の工夫     環境に配慮した消費生活の工夫と実践

### ＜製作実習題材の例＞

落ちないネクタイ	家庭用防災袋
	
<input type="checkbox"/> 小学校家庭科裁縫技能の習得状況の確認と活用 【並縫い・ミシンによる直線縫い】 <input type="checkbox"/> 節電と快適な住まい方の工夫 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した消費生活の工夫と実践	<input type="checkbox"/> 中学校技術・家庭科家庭分野裁縫技術の習得 【まつり縫い・スナップボタンつけ】 <input type="checkbox"/> 住まいの安全・安心対策 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した消費生活の工夫と実践
防災頭巾	玄関収納ポケット
	
<input type="checkbox"/> 小学校家庭科裁縫技能の活用 【ミシンによる直線縫い・ボタンつけ】 <input type="checkbox"/> 住まいの安全・安心対策 <input type="checkbox"/> 衣生活・住生活についての課題と実践	<input type="checkbox"/> 中学校技術・家庭科家庭分野裁縫技術の習得 【まつり縫い】 <input type="checkbox"/> 快適な住まい方の工夫 <input type="checkbox"/> 衣生活・住生活についての課題と実践

## Ⅱ 中学校家庭分野 1-(3) 題材名：住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しようー落ちないネクタイの製作ー

【活動のねらい】市販の手ぬぐいを用いて作る方法と、布を裁断して製作する方法がある。ここでは、布を裁断して製作する方法を紹介する。ポケットを3つつくり、首の後ろと左右の頸動脈に保冷剤が当たるようにして夏の暑さを防ぎ、室温を下げる電化製品の使用を抑え節電にもつながる工夫を考えさせる。

### <材 料>

- ・綿ブロードまたは綿ダブルガーゼ 88cm
- ・ミシン糸（手縫い糸で、並縫い・本返し縫いで作らせてもよい）

### <用 具>

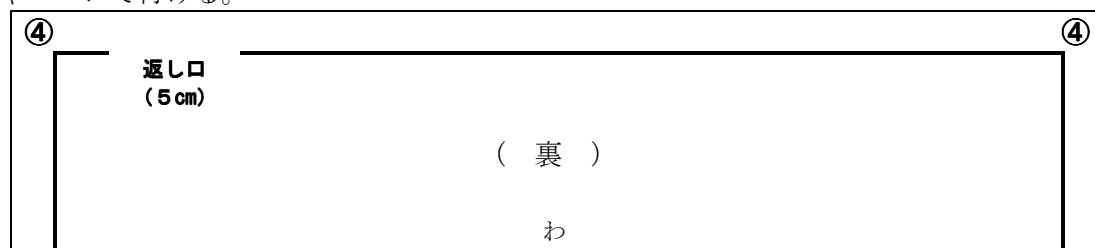
ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、裁ちばさみ、まち針、糸切りばさみ（手縫いの場合、手縫い針（短針）、指ぬき）、アイロン、アイロン台

### < 落ちないネクタイの作り方 >

- ① 布地を裁つ。縦の長さはいずれも88センチ、横の長さは布を無駄にしないように次のようにする。110センチ以上の幅の場合は4等分、90センチ幅の場合は3等分とする。

【日本の和裁の裁断：反物を無駄なく使用していることを学習させるとよい】

- ② 裁断した布を中表に二つ折りにし、1cmの縫いしろを取り、出来上がり線と返し口の印をチャコペンで付ける。



- ③ 出来上がり線の印のとおりミシンで縫う。

【始めと終わりは返し縫い】

- ④ 4つの角をミシンの縫い目を切らないように、切り落とし、返し口から表に返す。【写真1】まち針で角を整え、アイロンをかける。



【写真1】④角の切り落とし

- ⑤ ④を二つ折りにし、返し口部分をミシンで縫い合わせる。【写真2】

返し口を縫い合わせた布端から、1.8cmのところ、保冷剤のポケット部分を1.2cm間隔で、ステッチをかける。（ミシンの直線縫い）

【始めと終わりは返し縫い】

保冷剤を入れるポケットを3つ作る。【完成】



【写真2】⑤


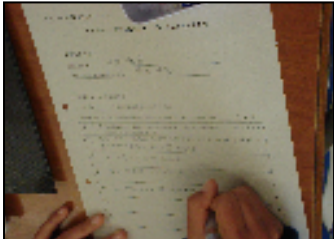

被服材料による冷却度の違いを体感してみよう








## Ⅱ 中学校家庭分野 2-(1) 題材名：家族が安全・安心な室内環境を考えよう

※川地里美 (2012), 『中学校技術・家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する研究  
 -住生活の内容における題材開発と指導資料の作成を通して-』, 岩手県立総合教育センター

題材名	家族が安全・安心な室内環境を考えよう	項目	C(2)「住居の機能と住まい方」 イ
題材の目標	家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り, 快適な住まい方を工夫できる		
題材の指導計画	① 家族が「ホッとできる」室内環境を考えよう <span style="float: right;">2時間</span> ② 家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方の工夫について考えよう <span style="float: right;">2時間</span>		
題材の評価規準	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能
	安全で快適な室内環境の整え方や, 住まい方に関心を持ち, 整え方と住まい方の課題に取り組み, 住生活を豊かにしようとしている。	室内環境について課題を見付け, 安全で快適な整え方や住まい方について考え, 工夫している。	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する知識を身に付けている。
教師の事前準備	教材・教具	<input type="checkbox"/> 前時までに紙用のはさみを持参することを連絡しておくこと <input type="checkbox"/> ブラックボード (サイズA3) 各班1枚 (画用紙黒またはアルバム台紙黒) <input type="checkbox"/> 住まいに関する雑誌や家具カタログや住宅広告 <input type="checkbox"/> 水のみ, 付せん紙(サイズ7.5×5mm, ピンク色・水色), <input type="checkbox"/> セブクロス法ワークショップシート各班1枚【ポスタープリンターで拡大印刷】 ★ <input type="checkbox"/> ポスタープリンターが無い場合: マス目模造紙各班1/2枚, マジック, 定規	
	学習活動・ 地域資源活用	<input type="checkbox"/> グループ学習の形態をとるため, 班編成を行っておくこと <input type="checkbox"/> 班で取り上げる住空間が重複しないように, 教師が住空間を区分しておいてもよい	
指導展開例	学習活動 学習内容	板書例	指導上の留意点, 教材・教具活用場面, 評価場面・評価方法
1/4時	・前時までの学習を振り返る ・本時の学習課題を確認する 学習課題 家族が「ホッとできる」室内環境を考えよう ・モデル家族を確認する ・コラージュで作成する住空間を選び, 必要な家具や設備について意見を出す ・リビング+玄関→ 班 ・台所+ダイニング→ 班 ・風呂+洗面所+トイレ→ 班 ・小学生幼児の部屋+階段→ 班 ・祖父母の部屋+廊下→ 班 ・作業を分担し, 雑誌・カタログ・住宅広告から必要な家具や設備を切り取る ・家族が集まったり, 共用したりする住空間について, 家具の配置や団らんの場を工夫し, コラージュに表現する	板書例 生活や技術についての知識・理解 <住居の基本的な機能(動き)> ・風雨, 寒暑などの自然から保護する働き ・心身の安らぎと健康を維持する働き ・子どもが育つ基盤としての働き など <住空間> 共同生活の空間と個人生活の空間	指導上の留意点, 教材・教具活用場面, 評価場面・評価方法 ・住居の基本的な機能, その機能を果たす住空間との関連, 住まい方のルールやマナーが必要になるなどの既習事項を確認させる ・少子高齢化におけるモデル家族が安心して生活できる室内環境をコラージュで表現させる 【日常生活の場面設定】(モデル家族の例) 70歳代祖父母, 40歳代父母 子ども 中学生1人・小学生1人・幼児1人 など ↑ 指導事項として, 「幼児や高齢者など様々な年齢で構成される家族が安全で快適な生活を送れるようにすることの重要性に気づかせるように配慮する」とあるため, モデル家族を設定する場合に留意する ・コラージュ作成に必要な材料(台紙, 雑誌・カタログ・住宅広告)を配付し, 作成の手順と留意事項を説明する ・作成中に机間巡視し, モデル家族が安心して楽しく住まう室内環境になるよう考え, 作成するように支援する。不完全なコラージュの中に, 次の学習段階での生活課題が潜在するので適度に支援する ・家族がホッとできるように工夫した点についてまとめさせる
導入			
展開			
まとめ			

指導 展開例	学習活動 学習内容 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">板書例</span>	指導上の留意点, 教材・教具活用場面, <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価場面・評価方法</span>										
2/4時  導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時から継続している本時の学習課題を確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           学習課題  <b>家族が「ホッとできる」室内環境を考えよう</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>コラージュ作成に必要な材料を準備する</li> <li>コラージュの作成状況を確認し、作品を完成させる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班の作成状況を確認して、完成途中の班があれば、作業時間を配当する</li> <li>発表原稿作成シートを配付し、コラージュが完成した班から、発表の準備に入らせる</li> </ul>										
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表原稿作成シートを使って、「家族がホッとできる室内環境」の工夫点をまとめ、発表の準備・練習を行う</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>完成したコラージュについて、工夫した点を発表する</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家族がホッとできる室内環境」の工夫点を要点よく発表できるように、発表原稿作成シートを活用させて、発表の準備と練習をさせる</li> <li>発表する内容について共同で考えさせるために、発表原稿作成シートは、一人ひとり書くことを指示する</li> <li>発表者と掲示担当を決めさせる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">技術・家庭科（家庭分野）生徒用学習シート</p> <p style="text-align: center;"><b>「家族がホッとできる室内環境」 コラージュ発表原稿作成シート</b></p> <p style="text-align: center;">_____年 組 番（ ） 班 氏名 _____</p> <p>1 発表シナリオを作成する これから、（ ） 班の発表を始めます。（礼） 家族がホッとできる室内環境のコラージュ作成で工夫した点は、次の（ ） つです。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 20px;">いち</td> <td style="width: 80%;">1、</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">に</td> <td>2、</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ろく</td> <td>6、</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">しち</td> <td>7、</td> </tr> </table> <p>以上で、（ ） 班の発表を終わります。（礼）</p> <p>2 発表者を決める 発表者氏名 _____ コラージュ掲示担当者氏名 _____</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の礼法を確認させ、すべての班に工夫点を発表させる</li> <li>発表を聴く側のマナーについても指導する</li> </ul>	いち	1、	に	2、	~~~~~		ろく	6、	しち	7、
いち	1、											
に	2、											
~~~~~												
ろく	6、											
しち	7、											
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師からの講評を聞き、工夫点を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての班の発表後に、教師から講評する</li> </ul>										

指導 展開例	学習活動 学習内容 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">板書例</span>	指導上の留意点, 教材・教具活用場面, <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価場面・評価方法</span>
3・4/4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題を確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心と安全の意味について考えさせる</li> <li>安心と安全の相違点や、住まいの安全を脅かしている現象、高齢者と幼児の身体的変化や動き、災害など、それぞれの特徴を確認させる。</li> </ul>
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>学習課題</b>            安心な（ホッとできる）室内環境は、安全で快適な住まい方につながるか考えよう         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>「ホッとできる」とは</b>            ① 安心できるということ            ② <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">安全</span>も加えて考えていく            ↓  <b>「安心・安全」とは</b>            ① 危険がないこと            ② けがをしないこと         </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>指導の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語事典や広辞苑で「安心」「安全」の意味を調べさせる</li> <li>教科書の資料から、家庭内事故や高齢者、幼児、災害の特徴について確認させる</li> <li>参考資料：実践家庭科教育大系 15p. 99 図 4-5                &lt;住居の安全性と危険を脅かしている現象&gt;               <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">住居の安全性</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">家庭内事故</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">火災</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地震・台風など</div> </div> </div> </li> </ul> </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族がホッとできる住まいのカラーージュから、危険箇所を見つける（課題の見いだし）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>カラーージュを住まいの安全対策学習に役立てよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>付せん紙ピンク色 →安全対策OK！</li> <li>付せん紙水色 →安全対策が不安</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>セブンクロス法ワークショップで安全対策が不安な点、危険箇所の対策を考える（課題解決）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>安全・安心な室内環境について考えよう</b>  <b>セブンクロス法で課題解決!</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>住まいの安全対策について発表する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班に付せん紙（ピンク色・水色）を配付する</li> <li>各班の発表後、他の班のカラーージュを見て回らせ、付せん紙のピンク色によく工夫している、または、安全対策ができていた点を、水色に危険と思われ、安全対策が不安な点を、それぞれ記入させ、カラーージュに貼付させる</li> <li>安心だけでなく、安全にも配慮した室内環境を工夫するために、他者から多くの意見をもらうことの必要性を確認させる</li> <li>付せん紙に誹謗中傷を書かないように注意する</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>セブンクロス法ワークショップシートを各班に配付する</li> <li>カラーージュに貼付された水色の付せん紙を課題として、重要度の大小について考えさせ、①～⑦の順に貼らせる</li> <li>さらに、課題①～⑦への安全対策（方法）を、班員で協働して考えさせ、ピンク色の付せん紙に記入させ、取り組みやすさの順に、ワークショップシートに貼らせる</li> <li>できるだけたくさん課題解決の方法を考えさせ、ピンク色の付せん紙に記入させ、7×7=49マスを埋めさせる</li> <li>課題に対する対策について、発表させる</li> <li>発表したシートを教室内に掲示し、学習の振り返りに活用させる</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の振り返りとまとめをする</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【生活や技術への関心・意欲・態度、生活を工夫し創造する能力】</b>  <b>家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、安心できる快適な住まい方の工夫ができる</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習状況記録シートを用いて、家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方について、日常生活で気をつけていきたいこと、工夫したいことを考え、まとめさせる</li> </ul>

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

## 「家族がホッとできる室内環境」コラージュ発表原稿作成シート

年 組 番 ( ) 班 氏名 \_\_\_\_\_

### 1 発表シナリオを作成する

これから、( ) 班の発表を始めます。(礼)

家族がホッとできる室内環境のコラージュ作成で工夫した点は、次の ( ) つです。

例：1, <sup>いち</sup>自分の個室には、趣味のコーナーを設置しました。帰宅後にここでホッとすることが出来るように工夫しました。

<sup>いち</sup>  
1,

に  
2,

さん  
3,

し  
4,

ご  
5,

ろく  
6,

しち  
7,

以上で、( ) 班の発表を終わります。(礼)

### 2 発表者を決める

発表者氏名 \_\_\_\_\_

コラージュ掲示担当者氏名 \_\_\_\_\_

【生徒用ワークシート】 テーマ：家族が「ホッとできる」室内環境は、安全な住まい方につながるか考えよう！

### セブクロス法ワークショップシート

水色の付せん紙を重要度の大きい順に、課題①～⑦に並べます。次に、ピンク色の付せん紙に、その課題を改善する対策を考えて記入し、取り組みやすい順に並べます。

市立	中学校	年	組	班
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名

大 重 要 度 小

対策	課題①	課題②	課題③	課題④	課題⑤	課題⑥	課題⑦
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

大

取り組みやすさ

小



「安心・安全」な室内環境について考えよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

1 安心・安全について（広辞苑より）

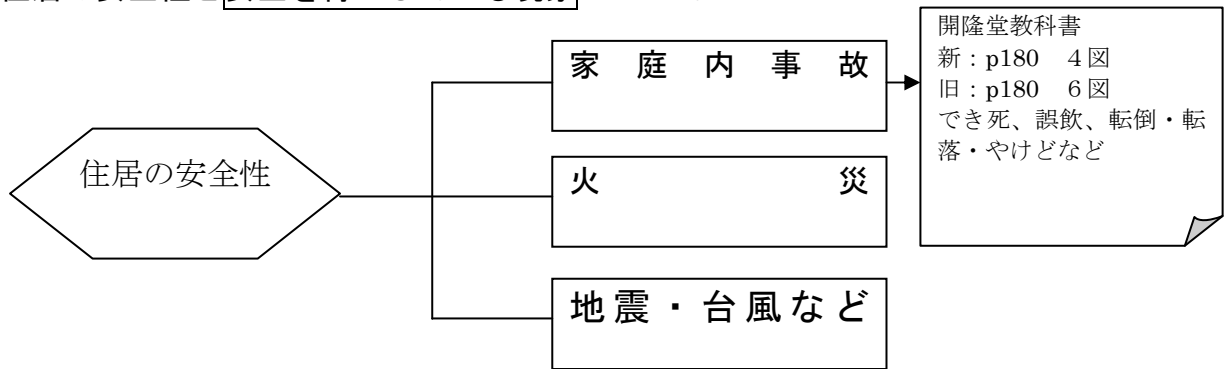
安心とは、心配・不安がなくて、心が安らぐこと。また、安らかなこと。

**安全**とは、①安らかで危険のないこと。平穩無事。「家内安全」

②物事が損傷したり、危害を受けたりするおそれのないこと。

「安全な場所に隠す」「安全な場所に移動する」など

2 住居の安全性と安全を脅かしている現象について



（参考資料：実践家庭科教育大系 15p-99 図 4-5）

3 <sup>こうれいしゃ</sup>高齢者（65歳以上）と幼児（1～5歳：小学校入学前まで）と災害の特徴について  
開隆堂教科書新 p181 図 5 参照

高齢者と障がいのある人の身体的変化の特徴	幼児の体と動きの特徴	災害の特徴
○視力の低下 ○ <sup>きやくりょく</sup> 脚力の低下 ○ <sup>へいこう</sup> 平衡感覚の低下 ○トイレに行く回数の増加 ○骨がもろく、骨折しやすい <div style="text-align: center;">危険</div>	○視界が低い （開隆堂教科書旧：p131 実習例 2， ○体が小さくて頭が重い （開隆堂教科書旧：p152，新：p30 幼児 3 歳 4 頭身） ○活動が活発 ○何にでも興味を示し、さわったり、ひっぱったり、口に入れたりする <div style="text-align: center;">危険</div>	地震 ○家具の転倒や落下 <hr/> 火災 ○炎・煙による延焼 <div style="text-align: center;">危険</div>

「安心・安全」な室内環境について考えよう

1 安心・安全について（広辞苑より）

安心とは、心配・不安がなくて、心が安らぐこと。また、安らかなこと。

**安全**とは、①安らかで危険のないこと。平穩無事。「家内安全」

②物事が損傷したり、危害を受けたりするおそれのないこと。

「安全な場所に隠す」「安全な場所に移動する」など

2 住居の安全性と**安全を脅かしている現象**について



（参考資料：実践家庭科教育大系 15p-99 図 4-5）

3 <sup>こうれいしゃ</sup>高齢者（65歳以上）と幼児（1～5歳：小学校入学前まで）と災害の特徴について  
開隆堂教科書新 p181 図 5 参照

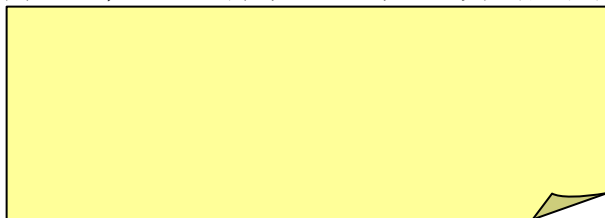
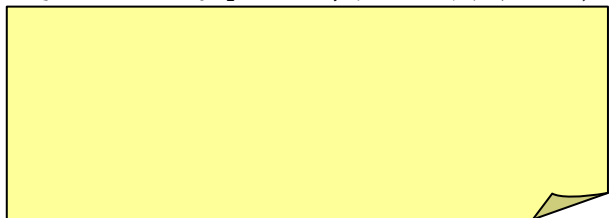
高齢者と障がいのある人の身体的変化の特徴	幼児の体と動きの特徴	災害の特徴
<ul style="list-style-type: none"> <li>○視力の低下</li> <li>○<sup>きやくりょく</sup>脚力の低下</li> <li>○<sup>へいこう</sup>平衡感覚の低下</li> <li>○トイレに行く回数の増加</li> <li>○骨がもろく、骨折しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視界が低い (開隆堂教科書旧：p131 実習例 2，)</li> <li>○体が小さくて頭が重い (開隆堂教科書旧：p152，新：p30 幼児 3 歳 4 頭身)</li> <li>○活動が活発</li> <li>○何にでも興味を示し、さわったり、ひっぱったり、口に入れたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震</li> <li>○家具の転倒や落下</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>火災</li> <li>○炎・煙による延焼</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">危険</div> <div style="width: 100%; height: 10px; background: linear-gradient(to right, transparent 49%, black 49%, black 51%, transparent 51%);"></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">危険</div> <div style="width: 100%; height: 10px; background: linear-gradient(to right, transparent 49%, black 49%, black 51%, transparent 51%);"></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">危険</div> <div style="width: 100%; height: 10px; background: linear-gradient(to right, transparent 49%, black 49%, black 51%, transparent 51%);"></div>
<p><b>階段・段差</b> <b>コード（抜けやすくなっているコンセント）</b> <b>マット</b></p>	<p><b>誤飲</b> <b>高い所、見えない所</b> <b>転倒</b></p>	<p><b>家具の転倒</b> <b>ガラスの破損</b> <b>（飛散テープ）</b></p>

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

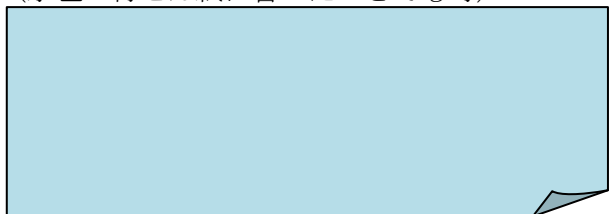
## 「安心・安全」な室内環境について考えよう【学習のまとめ】

年 組 番 ( ) 班 氏名


- 1 「コラージュ作成」の学習で、家族が「ホッとできる」室内環境を工夫するとき、どんなことを考えましたか。【モデル家族：70歳代祖父母，40歳代父母，子ども（中学生・小学生・幼児各1人）】



- 2 高齢者や幼児が同居する家族がホッとできる（安心な）室内環境を考えて作成したコラージュは、快適で安全な住まい方に直接結びついていましたか。あなたが発見した課題を記入してください。（水色の付せん紙に書いたことでも可）



- 3 セブクロス法シートを用いて、高齢者や幼児にとって安全で快適な室内環境を整えるために、あなたはどんな対策（方法）を考えましたか。（ピンクの付せん紙に書いたことでも可）



- 4 住まいの安全・安心「コラージュ学習」を通して、家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方について、日常生活で気をつけていきたいこと，工夫したいことをまとめてください。

【日常生活で気をつけていきたいこと】 ..... ..... ..... .....	＜先生から＞
【日常生活で工夫したいこと】 ..... ..... ..... .....	

## Ⅱ 中学校家庭分野 2-(2) 題材名：あずきや大豆を入れたお手玉を作って、子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう

【活動のねらい】 余り布や不要衣料を用いて、お手玉を作り、幼児の遊びの意義を理解する。伝承遊びの一つであるお手玉について、家族や地域の高齢者から聞いたり、習ったりして、子どもや高齢者とのよりよい関わり方について考え、工夫する。

- 余り布や不要衣料の活用     印付け     布地の裁断
- 布地の合わせ方（中表）     正しいまち針のとめ方     手縫い針に糸を通す
- 玉結び     並縫い     玉どめ     足の付いたボタン（鈴）の付け方
- 幼児の遊びを理解する     日本のお手玉（伝承遊び）の歴史を知る
- 幼児や高齢者とのよりよいかかわり方を工夫できる     幼児触れ合い体験実習
- 湯通し     豆を煎る     技術分野生物育成とのクロスカリキュラム
- お手玉の中身を非常食に活用する調理方法を考える

### <かます型お手玉の材料（1個分）>

- ・布（木綿が縫いやすい）：縦12cm×横17cm（縫い代含み）
- ・足の付いたボタン（または鈴）：1個    ・手縫い糸
- ・中身（あずきや大豆など）：40g

### <用 具>

ものさし（竹尺）、チャコペン、裁ちばさみ、まち針  
糸切りばさみ、手縫い針（短針）、指ぬき、はかり、軍手

### かます型お手玉

袋型としては、一番古いお手玉。穀物の入れ物として使っていた「かます」をかたどったところからこの名がついたそうです。

作り方が一番簡単です。鈴の代わりに、足のついたボタンを用意して、ボタン付けを練習しましょう。

### < かます型お手玉の作り方 >

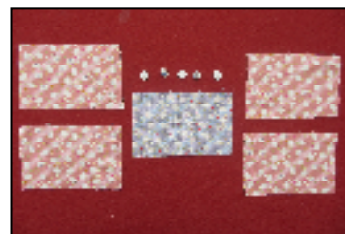
- ① お手玉の中身は虫食いを防ぐために、次のように下準備する。あずきの場合は、熱湯を通し、よく乾燥させてから入れる。【写真1】  
大豆は、虫を防ぎ、よい香りが出るように、煎ってから入れる。【写真2】



【写真1】 あずきに熱湯を通す



【写真2】 ①大豆を煎る



【写真3】 ②布地の裁断

- ② 木綿の余り布や不要衣料を、縦12cm×横17cmを3～5枚、裁つ。親玉とするお手玉は、布の色や模様などを変える。遊ぶためには3～5個作る。【写真3】
- ③ 寸法のとおり裁断した布を、中表にして、二つに折る。
- ④ チャコペンで布端から5mmのところ印を付け、縦横を細かい針目の並縫いで縫う。【写真4】
- ⑤ 表に返して袋にし、入れ口の部分を1cmほど内側に折って、表からぐるりと縫う。【写真5】
- ⑥ 中にあずきや大豆を入れ、残しておいた糸を引いて口をとじ、玉留めをする。鈴または足付きのボタンを縫い付け、ひもを結ぶ。【写真5】【写真6】



【写真4】 ④縦横の並縫い



【写真5】 作り方⑤⑥



【写真6】 かます型お手玉完成品

【参考文献】 日本お手玉の会監修(2004), 『お手玉 OTE DAMA』, 文溪堂

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

あずきや大豆を入れた「かます型お手玉」を作って、  
子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう

年 組 番 ( ) 班 氏名

【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
B：どちらかというと良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	① お手玉の中身の準備 ・あずきの湯通し ・大豆を煎る	伝承遊びの種類について知ることができた 豆類の防虫方法を理解することができた 安全にこんろを使用することができた						
	② 用布の準備と布地の裁断 ③ 布の二つ折り ④ 印付け	余り布や不要衣料を有効に活用することができた 無駄なく布地を裁断することができた 印を正しく付けることができた						
	⑤ 本縫い ⑥ 仕上げと足付きボタン付け	並縫いを細かい針目で縫うことができた。 中身の分量を正しく計ることができた お手玉の中身がこぼれないように、始末することができた 足つきボタンを丈夫に縫い付けることができた						
	☆お手玉の歴史や中身に穀物や豆類を入れた理由を家族や高齢者に聞いてみよう  ☆お手玉の遊び方を家族や高齢者に習ってみよう		☆お手玉の中身を非常食に活用する調理方法を考えよう					
	<学習のまとめ> 幼児疑似体験：軍手をはめてお手玉をやってみよう						<先生から>	
	-----							
	-----							
	-----							

### <俵型お手玉の材料（1個分）>

- ・布（木綿が縫いやすい）：縦10cm×横14cm（縫い代含み）
- ・足の付いたボタン（または鈴）：1個
- ・手縫い糸
- ・中身（あずきや大豆など）：30g

### <用 具>

ものさし（竹尺）、チャコペン、裁ちばさみ、まち針  
糸切りばさみ、手縫い針（短針）、指ぬき、はかり、軍手

### 俵型お手玉

主食の米を入れた俵をかたどったもの。江戸時代後半から作られるようになったそうです。

中身を40～50gにする場合は、布地を縦10cm×横17cmに裁断します。

### < 俵型お手玉の作り方 >

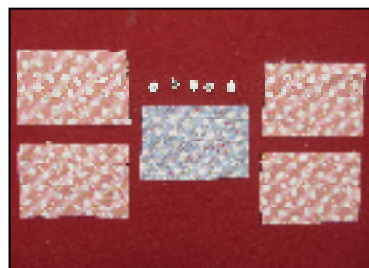
- ① お手玉の中身は虫食いを防ぐために、次のように下準備する。あずきの場合は、熱湯を通し、よく乾燥させてから入れる。【写真1】  
大豆は、虫を防ぎ、よい香りが出るように、煎ってから入れる。【写真2】



【写真1】 あずきに熱湯を通す



【写真2】 ①大豆を煎る

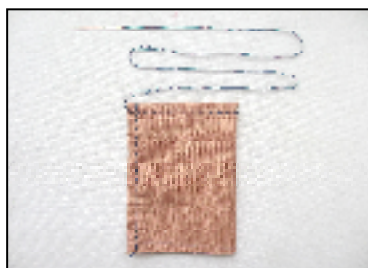


【写真3】 ②布地の裁断

- ② 木綿の余り布や不要衣料を、縦10cm×横14cmを3～5枚、裁つ。親玉とするお手玉は、布の色や模様などを変える。遊ぶためには3～5個作る。
- ③ 寸法のとおり裁断した布を、中表にして、二つに折る。
- ④ チャコペンで布端から5mmのところ印を付け、縦を細かい針目の並縫い（ぐし縫い）で、縫って輪にする。【写真4】
- ⑤ 横を細かい針目の並縫い（ぐし縫い）で縫って、最後を絞り、玉留めをする。【写真5・6】
- ⑥ ⑤を表に返して袋にし、中身を入れる。【写真7】
- ⑦ 中身を入れたら、入れ口の部分を縫って、糸を引きつぼめる。縫い代を中に入れて、玉留めをする。鈴または足付きのボタンを縫い付ける。【写真8】



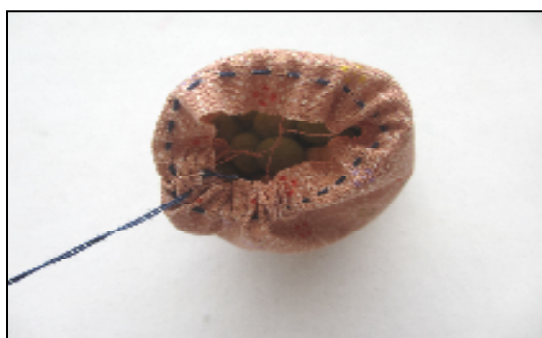
【写真4】 ④縦の並縫い



【写真5】 ⑤横のぐし縫い



【写真6】 ⑤ぐし縫い部分を絞る



【写真7】 ⑥、⑦入れ口部分の始末



【写真8】 ⑦俵型お手玉の完成品

【参考文献】 広田千悦子(2008), 『おうちで楽しむにほんのもてなし』, 技術評論社

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

**あずきや大豆を入れた「俵型お手玉」を作って、  
子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう**

年 組 番 ( ) 班 氏名

【自己評価基準】 A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）  
 B：どちらかという良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）  
 C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）  
 D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	① お手玉の中身の準備 ・あずきの湯通し ・大豆を煎る	伝承遊びの種類について知ることができた 豆類の防虫方法を理解することができた 安全にこんろを使用することができた						
	② 用布の準備と布地の裁断 ③ 布の二つ折り ④ 印付け	余り布や不要衣料を有効に活用することができた 無駄なく布地を裁断することができた 印を正しく付けることができた						
	⑤ 本縫い ⑥ 表に返し中身を入れる ⑦ 仕上げと足付きボタン付け	並縫いを細かい針目で縫うことができた。 中身の分量を正しく計ることができた お手玉の中身がこぼれないように、始末することができた 足つきボタンを丈夫に縫い付けることができた						
	☆お手玉の歴史や中身に穀物や豆類を入れた理由を家族や高齢者に聞いてみよう  ☆お手玉の遊び方を家族や高齢者に習ってみよう		☆お手玉の中身を非常食に活用する調理方法を考えよう					
	<学習のまとめ> 幼児疑似体験：軍手をはめてお手玉をやってみよう						<先生から>	
	-----							
	-----							
	-----							

## Ⅱ 中学校家庭分野 2-(3) 題材名：家族の安全マニュアルを考えよう

【活動のねらい】家庭生活における日常の危険・事故の防ぎ方や自然災害への備えなどの安全管理の方法を理解し、安全な住まい方について考え、工夫する。日常の危険・事故や自然災害について、危険な箇所を点検したり、過去の災害の例を家族や地域の人々から聞き取り調査したりする。幼児や高齢者など様々な年齢で構成される家族が安全で快適な生活を送れるようにすることの重要性について気づく。

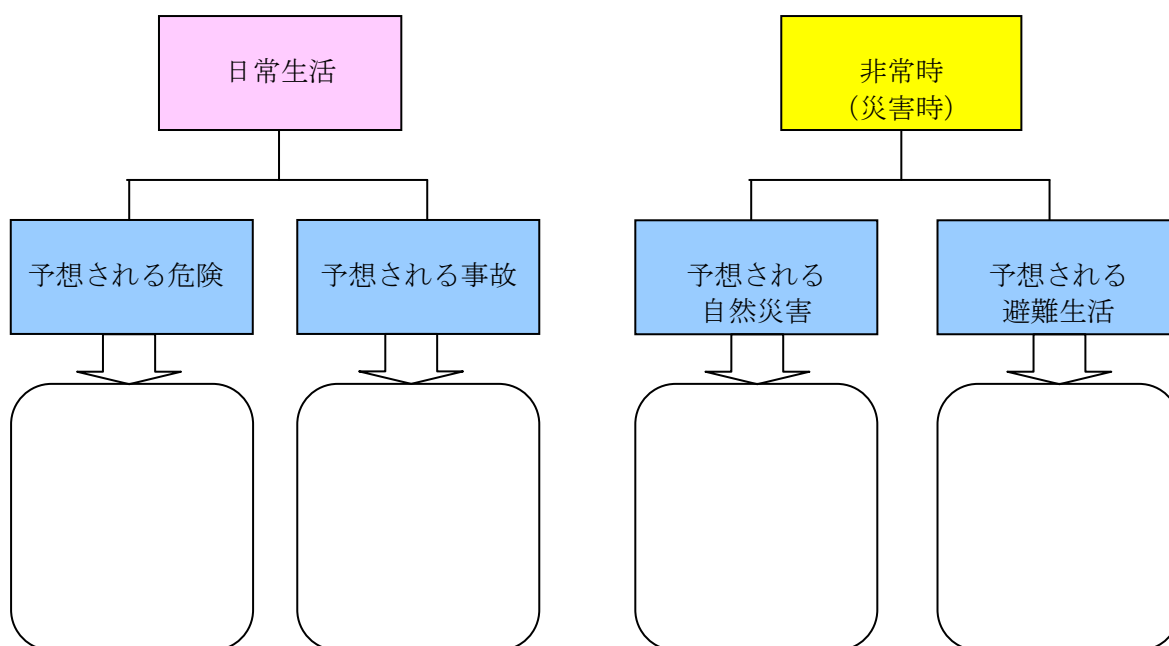
- 日常の危険・事故の防ぎ方
- 災害時の家族の安否確認や避難生活等の備え
- 家族や地域の人々を対象とした調査活動（情報の収集）
- 家族の安全マニュアル作成に必要な情報の分類・整理
- 作成計画
- 幼児や高齢者と暮らす家族の安全で快適な住まい方の工夫
- 家族又は幼児の生活についての課題と実践
- 食生活についての課題と実践
- 衣生活又は住生活についての課題と実践

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

### 家族の安全マニュアルを考えよう

年 組 番 ( ) 班 氏 名

☆あなたが暮らす地域の日常の危険・事故，起こりやすい自然災害等について家族と話し合っ  
て、書き出してみよう。さらに、予想される事態への対策をセブクロス法を用いて考えてみよう。



【参考文献】セコム株式会社「子を持つ親の安全委員会」監修(2012),  
『わが子を守る家族の安全マニュアル』, 株式会社ケーズ・パブリッシング  
つながる. Com 編集(2012), 『被災ママ 812 人が作った子連れ防災手帖』,  
メディアファクトリー  
坂本廣子(2011), 『防災袋に必携!! 自信の時の料理ワザ【電気が復旧するまでの1週間】』,  
柴田書店  
小学館防災チーム(2011), 『地震停電放射能みんなで生き抜く防災術』, 小学館

【参考資料】一関市(2013), 『わが家の防災力チェックノート』, 一関市消防本部

【参考Web ページ】総務省ホームページ>消防庁>生活密着情報>地震などの災害に備えて  
『防災教材「チャレンジ! 防災 48」』『私のサバイバル手帳(PDF)』  
『地震そのときに備えてシリーズ(H18年度)家庭防災編シリーズ』



【生徒用ワークシート】 テーマ：家族の安全マニュアルを考えよう！【日常の危険・事故の防ぎ方（対策）】

セブクロス法ワークショップシート

水色の付せん紙を重要度の大きい順に、課題①～⑦に並べます。次に、ピンク色の付せん紙に、その課題を改善する対策を考えて記入し、取り組みやすい順に並べます。

市立	中学校	年	組	班
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名

大 重 要 度 小

	対策	課題①	課題②	課題③	課題④	課題⑤	課題⑥	課題⑦
大 ↑ 取り組みやすさ ↓ 小	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							

【生徒用ワークシート】 テーマ：家族の安全マニュアルを考えよう！【予想される自然災害への対策】

セブクロス法ワークショップシート

水色の付せん紙を重要度の大きい順に、課題①～⑦に並べます。次に、ピンク色の付せん紙に、その課題を改善する対策を考えて記入し、取り組みやすい順に並べます。

市立	中学校	年	組	班
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名

大 重 要 度 小

	対策	課題①	課題②	課題③	課題④	課題⑤	課題⑥	課題⑦
大 ↑ 取り組みやすさ ↓ 小	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							

【生徒用ワークシート】テーマ：家族の安全マニュアルを考えよう！【予想される避難生活への対策】

セブクロス法ワークショップシート

水色の付せん紙を重要度の大きい順に、課題①～⑦に並べます。次に、ピンク色の付せん紙に、その課題を改善する対策を考えて記入し、取り組みやすい順に並べます。

市立	中学校	年	組	班
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名
番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名	番 氏名

大 重 要 度 小

対策	課題①	課題②	課題③	課題④	課題⑤	課題⑥	課題⑦
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

大

取り組みやすさ

小

### Ⅲ 高等学校家庭科 1-(1) 題材名：文化祭で郷土料理や地場産品を取り入れた ふれあい食堂やバザーを企画しよう

【活動のねらい】 家庭科と文化祭等の特別活動とのクロスカリキュラムを計画する。家庭科で身に付けた食生活学習・調理や消費生活学習の知識・技術を活用して、ふれあい食堂やバザーを企画する。公衆の場を対象とした調理を企画することは、衛生・安全な調理に十分留意するとともに、非常時の炊き出し体験につなげることができる。地域や被災地の地場産品を仕入れて、販売する等のバザーを企画することは、地域資源を再認識させ、社会貢献への態度を育てることにつなげることができる。

- 活動のねらい設定と、純利益の活用方法検討・決定・周知
- 食品の安全と衛生管理（身支度・作業習慣の徹底，食中毒防止対策）
- 社会における食の安全確保の仕組み  
（保健所による事前の指導と模擬店開設届の作成・提出，提供品の検体保管）
- 小学校家庭調理技能「茹でる」「炒める」を活用した調理の計画と実践
- 中学校家庭調理技能「煮る」「焼く」「炒める」を活用した調理の計画と実践
- 高等学校家庭調理技能「揚げる」「蒸す」「寄せ物」「各種様式」や、地域や被災地の食文化（食材・行事食・郷土料理等）を活用した調理の工夫と実践
- 地域や被災地の地場産品の調査と仕入れ値と販売価格設定の交渉（確認）
- 物資・サービスの選択，仕入れ，販売（サービスの提供），収支決算
- 消費行動と家族や地域社会における消費総量との問題
- 来場者の世代差を考慮したユニバーサルレシピの視点や環境に配慮した工夫

#### ＜活動の進め方＞

	活動内容	活動日程	提出書類など
1	所轄保健所での事前指導と模擬店開設届（様式）の受領	模擬店開設 2ヶ月前	担当教員が所轄保健所に電話連絡後、訪問し、開設に関わる食品衛生管理などの指導を受ける。（担当教員）
2	ふれあい食堂・バザー開設のねらい（実施基本方針）と純利益の活用方法の検討	保健所での 事前指導後	実施基本方針作成（担当教員） ふれあい食堂・バザー計画書①配付（生徒用）
3	ふれあい食堂・バザー計画書①提出とメニュー・提供品の調整・確定	模擬店開設 1ヶ月前	ふれあい食堂・バザー計画書①提出 実施要項起案（担当教員） 仕入れ業者などの
4	ふれあい食堂・バザーの内容検討	模擬店開設 1ヶ月前	ふれあい食堂・バザー計画書②配付（生徒用）
5	ふれあい食堂・バザーの材料発注	模擬店開設 3週間前	ふれあい食堂・バザー計画書②提出 ふれあい食堂・バザー計画書③配付
6	模擬店開設届けの起案	模擬店開設 3週間前	模擬店開設届・添付資料等（担当教員）
7	所轄保健所へ模擬店開設届け提出（これ以降メニュー等の変更不可）	模擬店開設 2週間前	校長決裁済みの模擬店開設届・添付資料等（担当教員）
8	ふれあい食堂・バザーの係分担計画	模擬店開設 1週間前	ふれあい食堂・バザー計画書③提出 洗剤・消毒液等の購入と設置 身支度・作業習慣の周知・徹底
9	ふれあい食堂・バザー開催に関わる食品衛生指導・管理	模擬店開設 当日	身支度・作業習慣・食中毒予防三原則の徹底・指導（教員・生徒） 提供品の検体保管
10	事後報告と純利益等の寄贈	模擬店開設 1週間後	収支決算報告書の提出 寄贈先への連絡

1 活動のねらい

2 模擬店の開設にあたっては、〇〇保健所の指導および、模擬店指導担当教員の指示に従い、計画・運営・収支決算報告を行うこと。〇〇保健所からの「模擬店開設の注意事項」を遵守すること。

3 模擬店の開設は、グループ（クラス）協議によって、必ずしも調理品提供の企画でなくても、未使用品を集めたり、被災地で作られた品物を仕入れたりして販売するバザーを企画してもよい。調理品提供の企画の場合は、家庭科の食生活・調理・食文化等の学習で身につけた知識・技能を活用した内容を工夫すること。さらに、来場者の世代差を考慮したユニバーサルレシピの視点や環境に配慮した工夫がなされるとよい。

4 クラスでの模擬店開設の場合、提供メニューは3品目程度とし、他のグループ（クラス）との重複がないように、計画書①提出後に調整会議を行い、確定する。バザーの企画についても、グループ間で内容の重複がないように調整会議を行う。メニュー等確定後、計画書②によって原価計算を行い、販売価格と材料の発注数の計算を行う。

5 ふれあい食堂（模擬店）計画上の注意事項【食中毒防止対策のため厳守】

- ① 食材・食品は、当日仕入れを原則とする。使用禁止食材は、精肉・魚・卵、未加熱調理品（サンドウィッチ、生クリーム系洋菓子等）、おにぎり、こねもの（たこ焼き、お好み焼き）等とする。飲料は、未開封の状態を提供すること。
- ② 食材提供容器は、すべて「蓋なしの使い捨て容器」を購入し準備すること。使用済みの容器は、回収し洗浄して種類毎に分別し廃棄すること。
- ③ 使用器具は事前に申し出て、元の位置へ洗浄して返却すること。  
炊飯・電子レンジ使用については電気容量の調整を図るので、事前に申し出ること。
- ④ 食器用ふきん・台ふきん、食器洗い用洗剤・薬用ハンドソープ等は調理室のものを使用してよい。ただし、洗剤が無くなっても洗剤容器は捨てずに、中身を詰めかえること。
- ⑤ 各グループ調理台1台を割当とする。当日の冷蔵庫使用については、各グループに分担された場所のみの使用とする。
- ⑥ 調理室での調理従事者は、各グループ6人とし、氏名・時間の交代などを計画書③で報告する。
- ⑦ 調理従事者（調理室調理、屋台調理・盛り付け、食券・レジ係、ウェイター・ウェイトレス全て）の服装は、三角巾、エプロンの着用を義務づける。爪は、1ミリ以下に切ること。  
当日、手指に傷（化膿巣）や胃腸炎症状がある場合は、調理従事者から外れること。
- ⑧ 校外からの借用物品については、グループ（クラス）で責任を持って返却する。  
（洗浄と故障の際の修理等）
- ⑨ 後片付けは全員で行い、模擬店指導担当教員に点検してもらう。

\*この用紙は、グループ（クラス）での話し合いの際に全員に配布し、確認の上、企画内容について討議をすること。

平成〇年度〇〇高祭ふれあい食堂・バザー計画書①

〇〇高祭実行委員会  
 模擬店指導担当：(生徒指導課・家庭科担当教員名)

食材を仕入れて、調理・提供する模擬店を実施したいグループ(クラス)・家庭部・家庭クラブ委員会などは、以下のことを話し合い記入して、△月△日(□)までに提出すること。この計画書をもとに、〇〇保健所への模擬店開設届けを申請するので、調整会議後の確定メニューの変更はできません。

部 門	年 組 または、 部・委員会	模擬店計画クラス責任者(文化委員とは別にしてください) 番 氏 名 番 氏 名	
メニュー	食材(具体的に)	使用調理器具(鉄板・ガスコンロ等)	使い捨て食器購入先

【相談したいことがあれば、記入してください。】

家庭で行う料理とは異なり、大量調理となります。1クラス3品程度を目安に、あとはジュース等の飲み物を提供すると作業がスムーズになります。メニューは、他の部門と重ならないようにすると、お互いの利益につながるので、後日グループ(クラス)間のメニューを調整する場を設定します。



平成〇年度〇〇高祭ふれあい食堂・バザー計画書③（係分担計画）

〇〇高祭実行委員会

模擬店指導担当：（生徒指導課・家庭科担当教員名）

年 組		8:00~13:00		12:00~16:00		*後片付けは、時間に関係なく全員で当てること。
係	番	氏 名		番	氏 名	
調理従事者 調理室						三角巾, エプロン着用 各時間6人まで (12:00~13:00は, 12人)
食券・レジ						貨幣を扱うので、食品に絶対に触れないこと。 食品提供者との業務を区別すること。 三角巾, エプロン着用
盛り付け						三角巾, エプロン着用
屋台販売 ・ウェイター&ウェイトレス						三角巾, エプロン着用

\* 12:00~13:00は大変混み合うので、午前・午後の担当者が一緒に仕事に当たり、業務の引継も行ふこと。


\* 文化部は当日のクラス企画係に従事可能かどうかを事前に確認し、やむを得ない場合は運動部中心で調理・食品提供を行うよう人員配置の計画を立てること。各クラス実行委員は、調理室・屋台で業務に当たるか、係分担には入らず総括を担当し、食品衛生上の連絡・指示を家庭科教員より受ける。



平成〇年度〇〇高祭ふれあい食堂・バザー実施報告書

〇〇高祭実行委員会

模擬店指導担当：(生徒指導課・家庭科担当教員名)

年 組	模擬店計画 責任者	氏名		
		氏名		
食品仕入れ先	食品名	仕入れ先		
売り上げ数	メニュー	前売	当日	合計
物品借用先	物品 (業務用器具調理器具)	借用先		料金・謝礼等
その他来年度へ引き継ぎたいこと <div style="float: right; text-align: center;">  </div>				

Ⅲ 高等学校家庭科 1-(2) 題材名：被服技術検定の技術を活かし、非常時対策グッズを  
考案・製作して地域の子どもや高齢者にプレゼント  
(普及) しよう

【活動のねらい】小中学校家庭での裁縫技能や被服技術検定の技術を活かし、非常時対策グッズを考案・製作する。乳幼児期から児童期までの子どもや高齢者の生活について考え、製作した非常時対策グッズを贈り、地域に貢献する態度を育てる。

- 余り布や不要衣料の活用
- 用途に合った被服材料の選択
- 印付け
- 布地の裁断
- 布地の合わせ方 (中表)
- 正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き
- ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線縫い (始めと終わりの返し縫い, 角の縫い方)
- 手縫い針に糸を通す
- 玉結び
- 並縫い
- 本返し縫い
- まつり縫い
- 玉どめ
- ボタン付け (2つ穴・4つ穴ボタン, 足付きボタン)
- スナップボタン付け (丈夫に付ける方法)
- 乳幼児期から児童期までの子どもの生活
- 高齢者の生活
- 日常と非常時の防火, 防犯, 耐震・免震などの安全性とその対策

<製作実習題材の例>

防災頭巾の繊維材料燃焼実験と内ポケット付き防災頭巾の製作

必ず、織物組織の布で作ったぬれ雑巾を用意すること。



☆内ポケットに入れておくと、役立つ物を考えてみよう

常備薬と服薬用水の救急ケース製作



☆不要衣料やゴミとして捨ててしまっている耐水性の高い包装材料等を活用して、救急ケースを工夫してみよう

## Ⅲ 高等学校共通教科家庭科 2-(1) 題材名：復興メッセージリボンを作って地域に普及させよう

【活動のねらい】復興メッセージリボンの製作・普及活動を通して社会参画への意識を高める。

- 玉結び  本返し縫い  玉どめ
- 各種メッセージリボンの意味を理解する
- 地域での普及方法を考え、実践する。

### ＜メッセージリボンの材料（1個分）＞

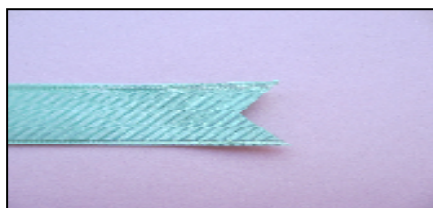
- ・サテンリボン（5～6mm幅）：8cm
- ・手縫い糸
- ・安全ピン（0番）1個

### ＜用 具＞

ものさし（竹尺）、裁ちばさみ、待ち針、糸切りばさみ、手縫い針（短針）、指ぬき

### ＜メッセージリボンの作り方＞

- ① リボンを8cm長さに切り、両端を裁ちばさみで切り落とす。【写真1】



【写真1】リボンの両端の始末

- ② リボンを【写真2】のようにクロスさせ、リボンの裏側に斜めに安全ピンを縫い止める。（糸は2本取り）

【写真3・4】



【写真2】リボンのクロス（表）



【写真3】②安全ピンの付け方（裏）



【写真4】②安全ピンの付け方



【写真5】普及方法の一例

若草色のメッセージリボンは、元千厩病院伊藤達郎院長（現大船渡病院）が東日本大震災の復興を願い発案しました。



他に、エイズに関する正しい理解と予防を啓発するレッドリボン（12月推進月間）。乳がん患者への理解、乳がん検診の推進、乳がん予防を啓発するピンクリボン（11月推進月間）。子ども虐待防止を啓発するオレンジリボン（10月推進月間）。環境保全（臓器移植への理解）を呼びかけるグリーンリボン。福祉社会への理解を呼びかけるイエローリボン。女性への暴力（DV等）根絶（または肝臓がんの啓発と撲滅）を呼びかけるパープルリボン。

家庭や社会生活の変化に応じて、メッセージリボンに込める願いや意味ごとに、リボンの色も年々増えていますから、調べてみましょう。

その中から、あなたは何色を選びますか？

Ⅲ高等学校共通教科家庭科2-(2) 題材名：保育技術検定の技能を活かし、文化祭などでプレイルームを企画しよう

【活動のねらい】プレイルームの企画を通して、乳幼児をもつ親が子どもとかかわる姿を観察したり、乳幼児や小学校低学年の児童をかかわって子どもと触れ合う機会をもつことなどにより、保育への関心をもたせるとともに子どもの発達の実際の姿について理解させる。また、子どもは自分の意思を十分に表現できないので、周囲の者が子どもの気持ちに寄り添うことが保育には欠かせないことに気付かせ、子どもは生活の中で人とのかかわりを通して育つことを理解させる。

- 子ども発達と生活      親の役割と子育て支援      子ども権利と福祉
- 子どもの健やかな発達を支える親の役割と保育の重要性と社会の果たす役割
- 学校家庭クラブ活動と関連（家庭科の授業の一環として、計画・立案・参加、HR活動・生徒会活動・学校行事・「総合的な学習の時間」など学校全体の教育活動との関連させる）

【ワークシート】（生徒にグループ学習をさせるときのシート）

プレイルームを企画しよう

立 高等学校 年 組 班		
番 氏名	番 氏名	番 氏名
番 氏名	番 氏名	番 氏名
内容の検討		
必要な遊具・物品・調達方法		
子どもとかかわり方		

【ワークシート】（生徒にグループ学習をさせるときのシート）

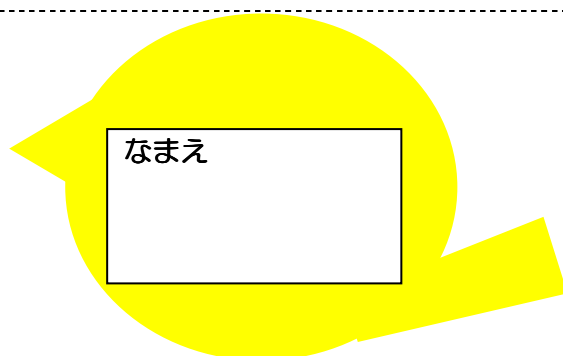
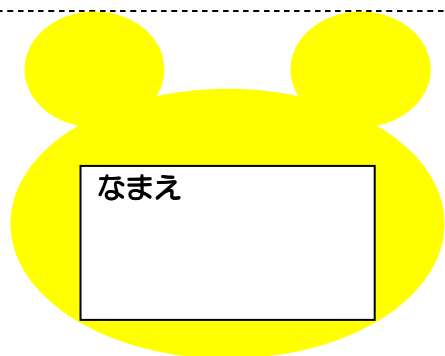
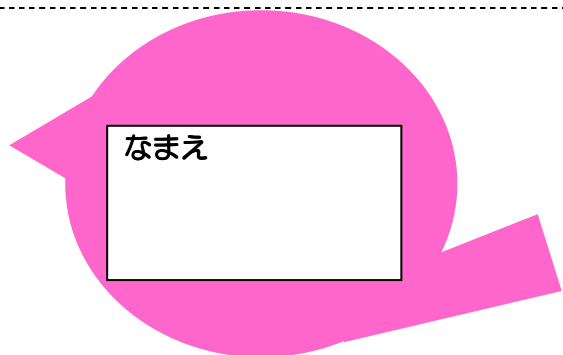
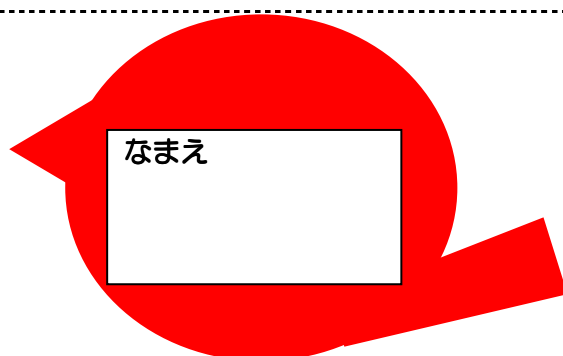
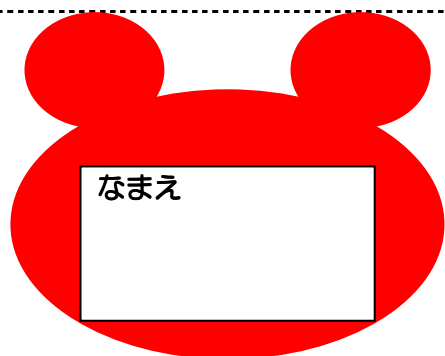
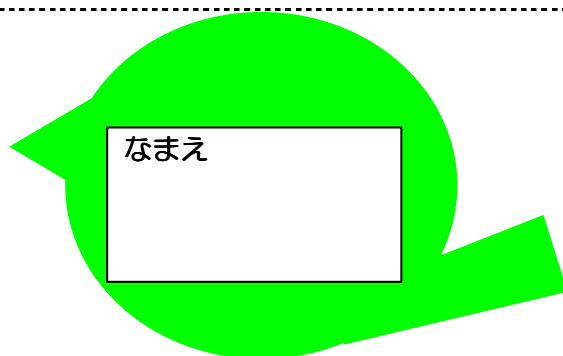
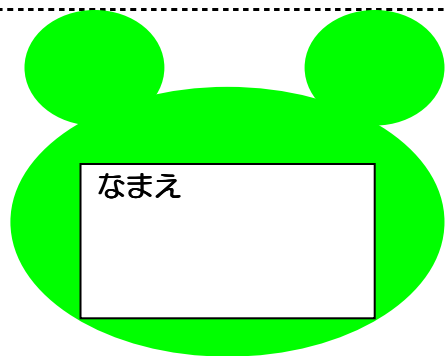
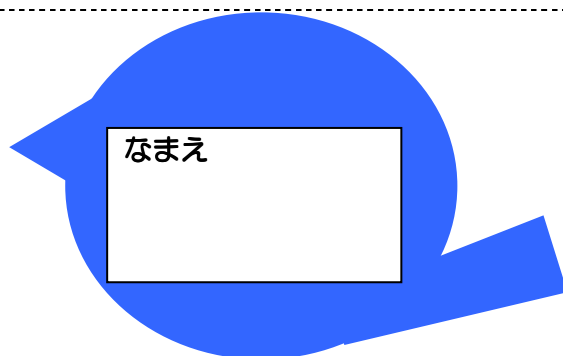
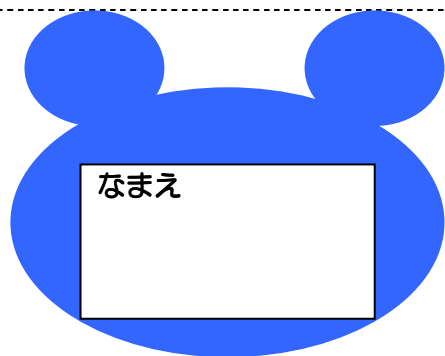
プレイルームの平面図を作成しよう

立	高等学校	年	組	班
番 氏名		番 氏名		番 氏名
番 氏名		番 氏名		番 氏名
☆ 子どもと保護者の安全・安心を考えて、楽しいプレイルームを計画しよう。				

子どものかかわり方体験教材〔訪問保育実習名札シール〕

使い方 名札のモチーフの色を園児の名札とおそろいにして、市販のラベルシールに印刷します。

かかわり方 生徒と園児がお互いの名前を呼び合いながらかかわることで、子どもとの距離を近づけることができます。



Ⅲ高等学校共通教科家庭科 2-(3) 題材名：安心・安全な生活や環境について  
考えよう（食生活・消費生活・住環境等）

Ⅲ高等学校共通教科家庭科 2-(4) 題材名：日常と非常時の子育てや高齢・障がい者の  
支援について考えよう



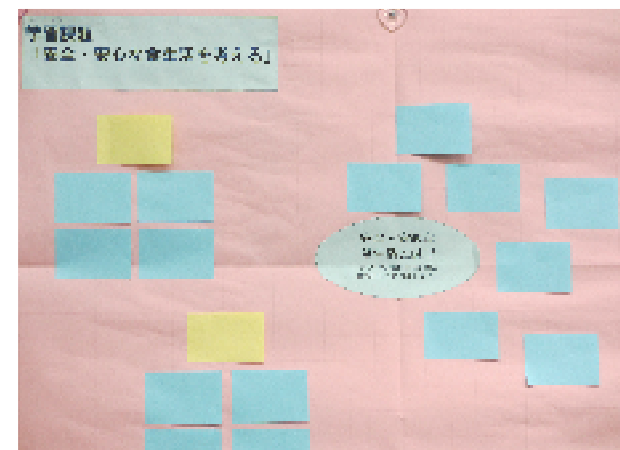
【活動のねらい】課題解決的な学習を通して、実際の家庭や社会生活の変化や問題について考える。

- 安全・安心な生活を送るための課題について考える
- 共に支え合って生きる社会を成立させるための課題について考える
- 学校家庭クラブ活動と関連（家庭科の授業の一環として、計画・立案・参加、HR活動、生徒会活動、学校行事、「総合的な学習の時間」など学校全体の教育活動との関連させる）

＜活動の進め方＞

- ① 学習課題を設定し、イメージマップを活用して、様々な生活課題について考える。
- ② 家庭科等の学習で身につけた知識・技能を活用し、文献・Web ページ等から正しい情報を判断し、課題解決につながる方法を考え、工夫し、発表したり、地域での普及活動につなげたりする。

イメージマップを作って、  の課題について考えよう

<p><b>1 生活を見つめる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●食生活の安全・安心、どんな状態をいうのか？</li> </ul> 	<p><b>2 課題を決める</b></p> <p>食生活の安全を確保するために、 皆さんが普段気をつけていることは？</p> 
	<p><b>3 計画を立てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食の安全の支援課題を設定して考える？</li> <li>● 対象となる家族・地域の人や、消費者と関係する消費者・団体の検討？</li> <li>● マーケティング調査（調査・観察）</li> <li>● 課題への改善策に対する検討（反響・返答）</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画、工夫を凝らして、実践する？</li> </ul>

【イメージマップシート】

# 学習課題

## 「安全・安心な食生活を考える」

☆3つのパーツを切り取り，模造紙に貼って使います。

安全・安心な  
食生活とは？

思いつくまま付せん紙に  
書き出して貼りましょう。

	学校	年 ふり	組 がな	班
出席番号		氏	名	



【イメージマップシート】

# 学習課題

## 「子育て支援や高齢・障がい者 支援について考えよう」

☆3つのパーツを切り取り，模造紙に貼って使います。

子育て家庭や  
高齢者・障がい者の  
生活課題とは？

思いつくまま付せん紙に

出席番号	学校	年	組	班
		ふり 氏	が 名	

**小学校家庭「3 実習の指導」の留意点**

小学校学習指導要領解説家庭編（平成20年8月）第3の3「実習の指導」より

3 実習の指導については、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。
- (2) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。
- (3) 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。

ここでは、実習の指導について、特に配慮することを述べている。家庭科は実践的・体験的な活動を通して学習することを特徴としているので、その中心的な学習活動である製作や調理などの実習を効果的に進めるために、事故の防止に留意する必要がある。

服装を整え、用具の手入れや保管を適切にすることが学習の効果を高めることや、熱源、用具、機械などの扱い方や手入れ、収納の仕方などを指導するようにする。また、食品についても安全・衛生に十分留意して扱うことを徹底する。

実習では、児童が自分の活動に集中して周りの環境に気付かなかつたり、慣れない用具を扱ったりして、危険を伴うことが予想されるので、指導者はそれらを見通して安全確認をし、家庭科室全体の用具等の配置や熱源、用具、機械などの扱い方を掲示して注意を促すなど学習環境を整え事故の防止に十分留意する必要がある。

**(1) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に扱うこと。**

服装については、活動がしやすく安全性に配慮したものを準備して着用するように指導する。例えば、調理実習での服装は、清潔で、付いた汚れが分かりやすいエプロン等を身に付けさせたり、袖口をまわったり腕カバーを付けたりなどして作業に適したものを着用することや、髪の毛などが食品や調理用具などに触れないように三角巾を着けるなどの工夫をさせる。

なお、製作や調理実習の前には手指を十分洗うなど衛生面にも留意するように指導する。

用具の手入れについては次のことを指導する。調理実習等においては、こまめな回りの汚れを拭き取る。調理用具は使用したらなるべく早く丁寧に洗い、よく水気を取るようにする。油の汚れは紙や古い布などで拭き取ってから洗うようにする。包丁は、安全に気を付けてよく洗い、水気を拭き取る。まな板は、使用后、流水をかけながら洗い、十分乾燥する。ふきんについては、洗剤液などで洗い、直射日光に当てて乾燥するなど、衛生的な扱いに留意する。

用具の保管については、安全や衛生に留意して収納させる。例えば、調理実習後、茶碗などを重ねすぎないようにしたり、清潔な場所に収納したりするようにする。また、製作実習で使用する針類、はさみ類、アイロン、ミシンなどの用具の安全な保管方法の指導についても徹底する。例えば、アイロンは冷めてから収納場所に保管する、包丁やはさみは本数を確認し、保管箱に入れたりカバーを付けたりするなど、保管には十分留意し、常に安全管理に努めるよう指導する。

- 調理中の着衣着火を防ぐため、冬期間などの調理実習当日に、アクリルのセーターなどの着用をしないように保護者に文書で事前に伝えておくようにするとよい。
- 実習中は児童と動線がからむため、教師の服装は、衛生的かつ目立つものがよい。
- 家庭から調理実習用のふきんを持参させる場合があるが、家庭ごとにふきんの洗浄・乾燥状態が異なることから、食品衛生上不安である。最も衛生的な方法として、調理室に食器用の白ふきん、台ふきん（食器用と区別するために色つきのもの）、床拭き用の雑巾が各調理台必要枚を用意すること。
- まな板は、木製ではなくプラスチック製のものが、衛生管理が容易である。まな板に包丁の切り傷がたくさんあると、その部分に雑菌が繁殖するので、適宜まな板を更新すること。スポンジは食器用洗剤で洗浄・すすぎ後、煮沸消毒（塩素漂白）をし、天日干しにする。

(2) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。

熱源や用具、機械などについては、取扱いを誤ると危険を伴うものがあるので、常に安全管理と事故の防止に努めることが大切であることを理解させ、それらを安全に扱うことができるようにし、基本的な操作を身に付けるように指導する。さらに、使用場所や用具の配置の仕方によって仕事の能率や事故の防止にも役立つことに気付かせるようにする。事故の防止のためには落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるように工夫することも重要である。なお、洗剤類の管理についても、誤用のないように十分留意する。

調理実習では、調理台の整理・整頓や用具の配置などを工夫させる。また、熱源や回りにふきんやノート類など燃えやすいものを置かないことや、熱源の適切な点火・消火の確認や調理中の換気について指導する。コンロや調理器具の余熱にも注意させる。

製作実習では、針の本数の確認や折れた針の始末などを徹底させる。また、アイロンは、使用場所や置き方に留意し、火傷などを引き起こさないように指導する。

機械については、例えば、ミシンなど重量のある物の配置、コードの取り扱い方などについて十分配慮させる。

**【用具を扱うときの注意】**

- ① よそ見をしたり、ふざけたりしない。
- ② 包丁の受け渡しは、調理台の上に置いた状態で行う。
- ③ 包丁の置き方に注意する。(まな板からはみ出させない)
- ④ ミシンやアイロン台、まな板は複数の児童に同時に使用させない。

**【ガスコンロの安全】**

- ① 点火したときは、火のついたことを確かめる。
- ② まわりに燃えやすいものを置かない。
- ③ 使用するときには、実習室の換気に注意する。
- ④ 使い終わったら、器具せんとガスせんを閉める。

(3) 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。

米飯とみそ汁以外は題材指定していないため、地域や学校、児童の実態に応じた多様な食品を用いることになる。調理に用いる材料は安全や衛生を考えて選択するようにする。児童が家庭から持参する場合は、実習の前に指導者が腐敗していないか匂いや色などを確かめたり、実習時間までの保管に十分留意したりする。特に、生の魚や肉については調理の基礎的事項を学習しておらず、扱いや衛生面での管理が難しいので用いないようにする。卵を用いる場合には、新鮮であることを確認し、加熱調理をするように指導する。

**【食中毒を予防3原則】 夏は細菌性食中毒・冬はウイルス性食中毒が多い。**

- ① 洗浄と密封で「菌を付けない」念入りな手洗い。肉や魚の汁で他の食品を汚染させない。
- ② 冷却で「菌を増やさない」冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下に。
- ③ 熱で「菌をやっつける」加熱は食品全体を75℃で1分以上。温め直しも75℃以上。

**【調理前の手洗い方法ー1分間手洗いの励行ー】**

- ① 爪を短く切る。(指輪、時計、手首のアクセサリ、ピアスをはずす)
- ② 流水で手指をぬらす
- ③ 薬用石けん(薬用ハンドソープ)をつけ、十分に泡立てる。ひじから指先までしっかりと、もみ洗いする。爪の間は、反対の手のひらに指先をこすりつけるようにして洗う。親指が洗えていないことが多いので、反対の4本指で覆いしっかりと洗う。
- ④ 流水で石けん分を十分除去するように流し、清潔なタオルやペーパータオルで水気をとる。  
**【※手指に傷(化膿巣)や胃腸炎症状がある場合は集団調理不可】**

## 中学校技術・家庭「3 実習の指導」の留意点

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成20年9月）第3の3「実習の指導」より

3 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

技術・家庭科における実習、観察・実験、見学、調査・研究などの指導について、特に配慮すべきことについて示している。

技術・家庭科では、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持に十分留意して学習指導を行う必要がある。特に機器類を取り扱う際には、取扱説明書などに基づき適切な使用方法を遵守させるなど、事故防止に万全の注意を払うとともに、以下の点に留意する必要がある。

### (1) 安全管理について

#### ① 実習室等の環境の整備と管理

実習室等の環境の整備と管理については、安全管理だけの問題ではなく、学習環境の整った実習室そのものが、生徒の内発的な学習意欲を高める効果があることに留意する。そのため、実習室内は生徒の学習意欲を喚起するように題材に関する資料や模型等を掲示するなど工夫し、授業実践を支える環境としての実習室の整備に努めるようにする。

実習室等の施設の管理では、実習室の採光、通風、換気などに留意するとともに、生徒の作業動線を考慮して設備の整備をしたり、加工機器等の周囲には安全域を設けたりして事故防止に努める。また、設備の管理では、機器類の定期的な点検及び学習前の点検を行い、常に最良の状況を保持できるように留意する。例えば、ガス管が設備された実習室では、露出しているガス管の点検や液化石油ガスの管理場所の点検を定期的に行うなど、各実習室の安全管理に必要とされる事項を具体化し、それに基づき管理するようにする。

#### ② 材料や用具の管理

材料や用具の管理は、学習効果を高めるとともに、作業の能率、衛生管理、事故防止にも関係しているため、実習などで使用する材料の保管、用具の手入れなどを適切に行うようにする。調理実習では、火気、包丁、食品などについての安全と衛生に留意し、食品の購入や管理を適切に行うよう十分に留意する。

これらについては、生徒にも指導を行い、整備や手入れを適切に行うことが技術の習得を補完するとともに、実生活でも役立つことに気付くよう配慮する。

なお、廃棄物や残菜などについては、その有効活用に努めるとともに、廃棄する場合は、自治体の分別方法等に対応して処理するようにする。

### (2) 安全指導について

#### ① 実習室の使用等

各学校の実態に即して実習室の使用規定や機器類の使用などに関する安全規則を定め、これらを指導計画の中に位置付けて指導の徹底を図るようにする。その際、事故が起きる状態とその理由などを予測させたり、その防止対策を考えさせるなど具体的に指導するようにする。また、事故・災害が発生した場合の応急処置と連絡の徹底など、緊急時の対応についても指導する。

#### ② 学習時の服装

服装については、活動しやすいものを身に付けさせ、安全と衛生に配慮するようにする。

機器類の操作場面では、皮膚を露出しない作業着などを着用させたり、作業内容に応じて保護眼鏡、マスク、手袋などの適切な保護具を着けさせたりする。食品を扱う場面では、エプロンや三角巾を着用させて、清潔を保つようにするとともに、手洗いを励行させるなどの衛生面に配慮するように指導する。

### ③ 校外での学習

見学、調査、実習などを校外で実施する場合には、目的地に到着するまでの移動経路などを事前に調査し、交通手段等の安全の確認や生徒自身の安全の確保に留意する。また、学習の対象が幼児や高齢者など人である場合には、相手に対する配慮や安全の確保などに十分気を配るように指導する。

校外での活動を計画する際には、校内での活動を同様に、事故を予見する力が求められる。また、事故の防止策及び事故発生時の対応策などについて綿密に計画し、教師の適切な対応とともに生徒の対応についても指導の徹底を図るようにする。

## 高等学校共通教科「家庭」「実験・実習の指導」の留意点

高等学校学習指導要領解説家庭編（平成22年5月）第3の3「実験・実習の指導」より

3 実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

実験・実習を行うに当たっては、被服実習室、食物実習室、家庭総合実習室などにおける施設・設備の定期点検及び整備を行い、安全管理や衛生管理を徹底するとともに、生徒の学習意欲を喚起するよう、資料、模型、視聴覚機器、情報通信機器などを整備し、学習環境を整えることが必要である。

また、電気、ガスなどの火気、薬品、針、刃物などの安全に配慮した扱いや、特に食材、調理器具などの衛生的な管理と取扱いについての指導を徹底し、事故や食中毒などの防止に努める。

## 高等学校専門教科「家庭」「実験・実習の実施に当たっての配慮事項」

高等学校学習指導要領解説家庭編（平成22年5月）第3の3「実験・実習の指導」より

3 実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備や薬品などの安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

実験・実習を行うに当たっては、関連する法規などに従い、被服実習室、食物実習室、保育実習室などの施設・設備の定期点検と整備を実施し、安全管理や衛生管理を徹底することが必要である。また、情報通信機器、視聴覚機器、掲示資料、模型などを適切に整備し、学習環境を整えることが必要である。特に、調理実習における電気、ガスなどの火気の扱い、実習室の換気、包丁などの刃物の安全な取扱いと管理、食中毒を防止するための食材の補完と取扱い、調理器具の衛生的な管理、被服製作や服飾手芸における針、縫製機器、薬品などの安全な取扱いと管理についての指導を徹底し、事故や食中毒の防止を図り、安全と衛生に十分留意して実験・実習ができるようにする。

また、校外に出て調査・研究・実習などを行う際においても、事故の防止や安全管理などに配慮し、指導計画を綿密に作成し、生徒が高校生としての自覚と責任をもって行動し、所期の目的が効果的に達成されるよう生徒指導にも十分留意する。

専門教科「家庭」各科目指導要領に示されている関係法規について

【学習内容との関連が示されている法規など】

消費者基本法、児童福祉法、老人福祉法、介護保険法、建築基準法、消防法、住生活基本法、高齢者の居住に関する安全確保に関する法律、高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）、食育基本法（及び食育推進基本計画）、食品安全基本法、食品衛生法（同施行令、同施行規則）、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS法）、学校給食法、健康増進法、乳及び乳製品の成分規格等に関する省令、食品及び添加物等の規格基準、器具及び容器包装の規格基準、公衆衛生関係法規（保健衛生関係、予防衛生関係、環境衛生関係、医事関係、薬事関係など）、幼稚園教育要領、保育所保育指針

【資格の根拠となる法規など】

調理師法、栄養士法、建築士法、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉法、児童福祉法

# 防災教育と関連付けた家庭科指導資料

平成 25 年 3 月 15 日版

発 行 岩手県立総合教育センター  
花巻市北湯口 2-28-1  
〒025-0395 TEL0198-27-2711

発行者 岩手県立総合教育センター  
研修部科学産業教育担当